

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.
112
海建

カイケン magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
修士論文・卒業研究
就職状況



目次

令和2年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	博士論文+修士論文+卒業論文・卒業設計	16
令和2年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績	18
学科イベントカレンダー	3	就職情報	30
研究室紹介	4		

● 令和2年度 研究室説明会日程

日・教室	2時限		3時限		4時限	
	10:40~11:20	11:30~12:10	13:20~14:00	14:10~14:50	15:00~15:40	15:50~16:30
4月3日(金) 1441教室	北嶋 [構造工学]	福井 [コンクリート構造工学]	近藤 [計算工学]	恵藤 [海洋構造デザイン]	居駒・相田 [海洋空間利用工学]	星上 [沿岸環境防災]
4月4日(土) 1441教室	小林(昭)・野志 [沿岸域工学]	菅原 [親水工学]	桜井・寺口 [ウォーター フロント都市工学]	山本 [沿岸地域計画学]	佐藤 [建築デザイン・計画]	小林(直) [海洋建築・ 建築デザイン]

※4月3日(金)・4日(土)の「令和2年度研究室説明会」の実施は「中止」となりました。

令和2年度 教室主任・クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
教室主任	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
学部1年	佐藤 信治	1352	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
	野志 保仁	1335	047-469-5281	noshi.yasuhito@nihon-u.ac.jp
学部2年	桜井 慎一	1356	047-469-5526	sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp
	星上 幸良	1334	047-469-5396	hoshigami.yukiyoshi@nihon-u.ac.jp
学部3年	居駒 知樹	1341	047-469-5482	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp
	相田 康洋			aida.yasuhiro@nihon-u.ac.jp
学部4年	小林 直明	1346	047-469-8362	kobayashi.naoaki@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
	菅原 遼	1345	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
大学院	近藤 典夫	1353	047-469-5423	kondo.norio@nihon-u.ac.jp

令和2年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	菅原 遼	1345	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
学生相談	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
留学生担当	桜井 慎一	1356	047-469-5526	sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp

学科
事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446

岡崎 敏美
倉井 朋美

okazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
kurai.tomomi@nihon-u.ac.jp

学生受賞

●優等賞

武田竜治 小島寛大
横畑佑樹 中村美月

●加藤賞

朝倉弘貴：鉛直荷重を受ける PC 骨組の地震後の力学的性状に関する実験的研究
海保紘大：SLWR が接続する浮体システムの動的挙動解析
草川和広：多数回繰返し载荷を受ける RC 造十字形柱梁接合部の接合部挙動に関する研究

●海建優秀賞

北澤龍太郎：折返しブレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究
佐藤安優美・深谷勇介・茂木一将：第 I 種 PC 骨組の地震時および地震終了後の力学的挙動に関する解析的研究

●桜建賞

横畑佑樹：「切断」すること、それは「繋ぐ」ことー日本橋における歴史を切断した首都高速道路の再歴史化ー
川口直也・山本陸人：海拔ゼロメートル地帯における大規模水害を想定した整備方策に関する調査研究
斉藤征大：市町村連携による避難困難地区の解消に関する研究ー平成 30 年 7 月豪雨被災地を対象としてー

●海建賞

岩田泰宏・高橋紘一郎・芹澤秀太・半澤亮佑：大磯北浜海岸における複数の堆砂垣の効果観測に関する研究
小山田駿志：BORDERLESS ARCHITECTUREー自国第一主義に対する建築的提案ー
鹿島 瞳：弾性係留索によって係留された大型浮体の運動応答特性
関本明日香：外国人観光客における災害種別避難誘導システム及び災害種別ピクトグラムの理解度に関する研究ー神奈川県鎌倉市を対象地としてー
高橋優太：OWC 型波力発電装置の空気室容積や形状の違いが空気室特性に及ぼす影響に関する実験的研究
半澤快斗：3 次元矩形容器の液面動揺に関する非線形数値シミュレーション

●日本大学部科校長賞（学術文化部門）

関口潤耶：日本沿岸域学会研究討論会 2019 優秀講演表彰受賞
唐崎雄亮：2019 年度日本建築学会大会（北陸）海洋建築委員会若手優秀発表賞受賞
小林駿邦：2019 年度日本建築学会大会（北陸）海洋建築委員会若手優秀発表賞受賞
山口兼右：日本沿岸域学会研究討論会 2019 優秀講演表彰受賞

●桜工賞

土橋大輔：オープンキャンパスなどの学科広報活動への多大な貢献
高橋大樹：卒業アルバム編集委員としての貢献
茂木一将：「令和元年度理工学部英語弁論大会」でのグランプリ受賞による貢献
大石展洋・中村美月・横畑佑樹：「歴史的空間再編コンペティション 2019」でのグランプリ受賞による貢献

●令和元年度（第 63 回）理工学部学術講演会優秀発表賞（口頭発表部門）

海老原碧：離島に寄港するクルーズ船の効果と課題に関する研究ー寄港実績のない有人離島を対象とした調査ー
菊地謙太：実大折返しブレースの終局状態に関する研究ーその 1 ブレース全体の変形性能に関する検討ー
平井翔太：振動水柱型を有する空気室の容積の縮尺影響に関する基礎的研究

●令和元年度（第 63 回）理工学部学術講演会優秀発表賞（ポスター発表部門）

鈴木雅洋：一樣流中において回転する円柱構造物の端部影響に関する実験的研究
漆山雄大：キッチンボート事業導入に向けた適地選定に関する調査研究ー東京都の都市河川・運河を対象としてー
加藤拓朗：指定管理者制度による新たな漁港管理の可能性に関する研究ー広島県の漁港を対象としてー
山本裕貴：空中都市ー海拔ゼロメートル地帯のリニアシティー
渡邊百花：商店街の既存ストックを活用した自立支援施設の提案

学科イベントカレンダー

2020 年

5月9日(土)	新入学生科オリエンテーション	夏季休暇中	海洋実習Ⅱ（2年生）
7月中旬	「海と建築」ポスター発表（1年生）	10月30日(金)	桜理祭（～11月1日(日)）
夏季休暇中	海外研修旅行	12月2日(水)	理工学部学術講演会
夏季休暇中	海洋実習Ⅰ（1年生）	—	—

2021 年

1月上旬	博士論文公聴会	3月8日(月)	卒業発表
2月上旬	卒業研究発表会	3月25日(木)	卒業式（学位記伝達式）
2月下旬	修士論文審査会	春季休暇中（予定）	海外研修旅行

海洋建築・建築デザイン研究室

1346 室



●研究室紹介

本研究室は、「建築を通して社会貢献する」を理念とし、設計提案または研究活動の成果を実際のプロジェクトに反映できるようにしています。さらに研究室でいうデザインは、単なる「かたち」ではなく全て機能があることを基にしています。

海洋建築工学分野自体は建築と土木と、またその他の技術分野の融合が重要である認識しています。さらに建築は現在まで培ってきた技術と異分野の技術の融合させることで更なる発展があると考えます。周辺のまちづくり、自然の環境、自然エネルギー等を考慮して建築を設計しますが、今後は建築自体が異分野の機能と結び付くことは必須と考えます。たとえば、単なる環境装置の設置を超えて周辺の自然と連携する、市街地多種の交通システムと連携を図る、ビッグデータ・AI・IOT・ロボットのインダストリー 4.0 技術とのさらなる融合等が必要と考えます。海洋建築であるからこそ無限の可能性と異分野との連携のポテンシャルが高いことを認識してください。

イノベーションを起こす場合、単独分野の既往の技術に縛られることなく異分野技術との融合を図ることで達成されるケー

スが多いことから、既往の技術の集積でなく、常にチャレンジ精神で新しい物事に向き合う姿勢が重要です。また、現在行なわれている 3.11 復興において、建築と土木の両分野の融合でもある海洋建築工学分野は、自然と防災、ユニバーサルデザイン、同時に地域産業と共存できる将来の国土づくりのリーダーシップを担う使命があると考えます。

●卒業設計・研究のテーマ

[建築・海洋建築・まちづくり計画デザイン]

- 1) 建築と土木を融合した海洋建築デザイン・サステナブル海洋建築デザイン
- 2) 人の知的生産性（プロダクティビティ）と行動（アクティビティ）を高める建築デザイン
- 3) 新交通システムと連携する建築デザイン
- 4) 3.11 復興計画デザイン（津波&放射線）・東南海トラフ地震による津波被災想定地のまちづくりと建築デザイン
- 5) 歴史的建造物の動態保存（使いながら保存する）と歴史的建造物のサステナブルデザイン
- 6) 既存ストックを利用した建築デザイン
- 7) 海洋利用のロバストネス建築デザイン

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、建築設計の基本的知識およびデザイン手法の指導と、自分の建築作品を相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上も課題に取り組んでまいります。

●着手条件

建築大好きな学生。デザイン（建築だけに捉われない）大好きな学生。デザイン演習の授業を受けて楽しいと思った学生がゼミ着手必須条件となりますので、基本的には卒研は調査、研究+設計が基本となります。



▲服部 立：
毎日・DAS 学生
デザイン賞 グラン
プリ「金の卵賞」、
受賞作品タイトル：
Singapore
Aquitecture

◀ 3.11 被災地アグリカルチャービジネス複合施設プロポーザル



茨城県美浦村霞ヶ浦大山区エアープレーン・水上スポーツ地方創生複合施設プロポーザル

ウォーターフロント都市工学研究室

1356室



●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り有効に使うことです。ゼミで最初に学ぶのは「**時間の管理**」です。時間を把握し、主体的に管理し、破綻のないスケジューリングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、自分の好きなことで挑戦できます。問題だと感じていること、将来、社会で必要になってくることを考え、自らが提案します。計画や企画・開発の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「**ニーズを掘り起こす能力**」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。自分の言葉で、わかりやすく、決められた時間内で、興味を引き飽きさせない「**プレゼンテーション力**」を養います。

●ゼミナール活動

前期は、時間管理や就活に向けた座学と、三番瀬やWFの見学会を実施します。夏季休暇前(7月頃)～12月末までの約半年間はゼミナール研究論文を作成し、成果は4年次に学会でも発表します。学生の学会発表状況などは、本誌各研究室紹介の後に続く「教員研究業績・研究室活動業績」をご覧ください。

●2019年度のゼミナール研究論文テーマ

- 牛奥理子：かわまちづくり支援制度を利用したハード整備実態の研究
 小川朋華：津波避難ビルの整備実態に関する研究
 小出将貴：釣り文化振興促進モデル港指定後の整備実態に関する研究
 柴崎比奈乃：日本の大規模水害における被害と対策状況に関する研究
 中村瑠里：水上タクシーの利用促進に関する研究
 松浦咲希：スポ GOMI による水辺のゴミ問題解決の現状に関する研究
 山川直人：高速道路を利用した津波避難施設の研究
 山田匠人：海浜公園で開催されるイベントの特性に関する研究
 大野駿英：東京臨海部における自転車利用の促進に関する研究

倉田大河：ウォーターフロントにおけるオープンテラスの利用実態に関する研究

●過去の卒業研究論文テーマ例

(A) ウォーターフロントを快適利用する環境整備

- ①ウォーターフロントの住宅を選ぶ住民の居住意識
- ②高齢者に配慮した親水テラスの整備方法
- ③調整池の市民開放と多目的利用に向けた方策
- ④ペット専用ビーチの整備と運営手法
- ⑤水中文化遺産を利用したダイビングスポット整備

(B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存策
- ⑦水辺景観を向上させる保存船舶の展示方法
- ⑧要塞跡・砲台跡の利活用方針
- ⑨景観演出に効果的な水中ライトアップの使用方法
- ⑩海への眺望を演出するスリットのサイズと効果

(C) ウォーターフロントの開発と有効利用

- ⑪クルーズ船誘致による沿岸部の地域振興方策
- ⑫漁港を活用した水上飛行機の就航地選定
- ⑬浮体施設の建造に伴う法規制の研究
- ⑭灯台の地域資源としての価値評価と保存活用方法
- ⑮洋上風力発電施設設置に向けた漁業者の意識調査

(D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑯津波ハザードマップの表記統一と利用促進方法
- ⑰津波避難シェルターの設置方策の検討
- ⑱海水浴場などマリナー施設での津波避難計画
- ⑲河川を遡上する津波からの避難対策
- ⑳船舶を用いた帰宅困難者輸送の検討

●主な年間行事 (③④の学会発表は4年生以上)

- ①WF見学会・ゼミ生歓迎会(5月)、②三番瀬体験散策会(6月)、③日本沿岸域学会研究討論会での発表(6月)、④日本建築学会大会での発表(9月)、⑤夏季研修旅行(9月)、⑥日本大学理工学部学術講演会での発表(12月)、⑦ゼミナール研究論文発表会(12月)、⑧桜井研究室卒研発表会(2月)

●着手条件

本研究室のフィールド(都市計画や都市政策)に興味がある人を募集しています。入室希望者は研究室説明会に必ず出席し、個人面談を受けてください。また、ウォーターフロント計画Ⅰ・Ⅱ、建築法規、海洋政策と関連法規などの科目を履修していることが望ましいです。興味を持ったらまずは研究室を訪れ、教員や院生に話を聞いてみてください。



WF見学会(東京・隅田川沿い)



2019年ゼミ宿泊(石川・富山)

建築デザイン・計画研究室

1352 室

Teaching Staff



専任講師
佐藤 信治

●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築やデザインが好き！であることが大切です。建築のデザインはある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイ・ガヤガヤと学びたいと思います。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画することも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、大学院、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%（当研究室比）を維持しています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計・デザイン〉と〈建築計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計・デザインテーマと建築計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計・デザインテーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・内蔵を活用したサテライトオフィスのデザイン
- ・3D スキャナーを活用した空間アーカイブシステムの構築
- ・「MR(Mixed Reality)」を活用したデザイン

〈建築計画テーマ〉

- ・秋田県各地区の登録有形文化財の調査
- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究

〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。昨年は、秋田県横手市増田町地区とコラボレーションしました。合宿期間中においては、自ら調べ、様々な建築物をデザインし、最終的には市民の前でプレゼンテーションし、交流を図ります（写真1、2）。

また、2011年度からは中華人民共和国北京市の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しております。2019年は西安市においてリゾート開発計画をデザイン（写真3）し、地方政府にプレゼンテーションを行ってきました。

さらに中国国内の青島市においては、広大なウォーターフロントに水辺を活用したIR（インテグレートッド・リゾート）Project が進行中です。

●ゼミナールのテーマ

設計デザイン及び建築計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。また、大学院生や学部生とのコラボレーションでコンペへの参加を推奨しております。歴史的空間デザインコンペ最優秀賞受賞（写真4）。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。



親水工学研究室

1345 室

Teaching Staff



助教
菅原 遼

特任教授
畔柳 昭雄

●研究室紹介

本研究室では、「人と水との係わり」をテーマとして、水と都市、水と建築、水と空間、水と生活などの観点から、私たちの生活環境における水環境の意味を探り、生活環境の質的向上に寄与する親水空間や海洋建築の計画的知見を得るための活動を行っています。

研究活動では、水との係わり方を実際に観察できる現地調査を重視し、フィールド・サーベイやオーラルヒストリーなどの調査手法を駆使して、都市部から農村部にかけての海や河川、運河などの多様な水環境をフィールドとした調査を行います。そのため、研究室では「歩く・見る・考える・伝える」チカラの修得を重視し、建築を観て、都市を感じ、水辺を知り、地域を理解するための関連研究・文献の紹介や、実際に水辺を訪れるまち歩きワークショップの開催など、研究テーマに関する理解増進や興味・関心を深めるための活動を行っています（写真1）。

また、地域と連携した実際的な研究活動や設計活動もっており、研究成果のアウトプットや地域の方々との連携したものづくり経験を通して、まちづくり・ものづくりに対する多角的な考え方を養い、将来、社会で活躍できる人材育成を行います（写真2）。

研究室を卒業したOBOGは、建設コンサルタント、ゼネコン（都市開発、施工管理）、内装設計、公務員など、都市・地域計画立案や建築設計施工に携わる企業に就職しており、OBOGによる就職情報交換や大学院進学支援も行っています。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナール活動では、前期は、都市・地域・建築計画に対する思考力や表現力の修得に向けたゼミ課題を実施します。具体的にはIllustratorやPhotoshopを用いた表現技術をわかりやすく解説します。また、地域と連携したデザインビルドを全国の水辺（2019年：千葉県佐原市、新潟県佐渡市）で行います（写真3）。後期は、卒業研究・修士論文と連携した研究活動を行い、文献調査や現地調査、研究発表などを通して研究の基礎を養い、卒業論文の執筆に向けた興味・関心の深化を図ります（写真4）。

●卒業研究のテーマ

卒業研究では、ゼミナール活動を通じて興味・関心を深めたテーマを中心に親水工学に関する調査研究を行います。近年の卒業研究のテーマは下記の通りです。

【都市・建築系】

- ・沿岸域の風土的建築物の環境特性に関する研究
- ・アジアの水上集落の地域建築特性に関する研究
- ・都市河川活用による地域づくりに関する研究
- ・海洋建築物の成立のための制度整備に関する研究
- ・水害常襲地域の地域建築対応に関する研究
- ・海拔ゼロメートル地域の地域建築対応に関する研究

【人間行動・意識系】

- ・親水空間における人間行動と評価に関する研究
- ・水辺の市民開放施策に関する研究
- ・水害常襲地域の災害意識に関する研究
- ・水郷集落の水利用に対する住民意識に関する研究

【地域・建築デザイン系】

- ・仮設および移動性を考慮した建築物デザイン
- ・キッチンポート事業実現に向けた水辺空間デザイン
- ・都市熱緩和のための親水空間デザイン
- ・貯木場水面の活用のための海洋建築物デザイン
- ・漁港漁村活性化のための地域デザイン

●着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください。希望者は、研究室活動や卒業研究着手、就職活動に支障のないように単位を取得していることを希望します。大学院進学希望についても、個別面談時にご相談ください。



写真1 水辺あるきワークショップ@隅田川



写真2 水辺の建築の実測調査



写真3 竹建築のデザインビルドによる実践活動

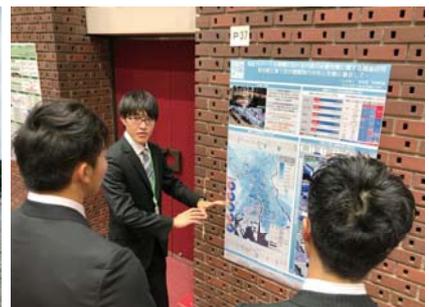


写真4 学会での研究成果発表

沿岸地域計画学研究室

1362 室

Teaching Staff

准教授
山本 和清

●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT (On the Job Training) に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ (旧アクセスディンギー)」という誰もが (小さい子供から高齢者・障がい者までも含む) 海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」(千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント)、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」(毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント)、「船橋港まつり」(毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業が中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり)では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し(写真1、2)、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・

障がい者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

●卒業研究のテーマ

[地域・都市活性化計画系]

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 防災船着場の有効活用を目指した手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

[福祉のまちづくり計画系]

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

[海洋プロジェクト系]

- 1) 海洋政策及び沿岸まちづくりにおける制度設計 (再生・復興・復活・改革)
- 2) Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。



写真1 「たてやま海まちフェスタ」ハンザ体験乗船会



写真2 「船橋港まつり」ハンザ体験乗船会



写真3 研究室合宿でのゼミ課題発表会



写真4 新入ゼミ生歓迎会 (東京都臨海広域防災公園見学会)

構造工学研究室

1361 室

Teaching Staff



教授
北嶋 圭二

●研究室紹介

北嶋研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、設置場所や構造種別にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に「より高度で合理的な構造システム」に着目して研究を行っています。

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた“建築構造システム”および“建築構造部材の構造性能”に関する実験的研究が多いことです。これまでに世界的にも例の少ない大型構造実験を数多く実施してきました(写真1)。

また、建物の耐震性能評価や制震構造設計法の開発のために、弾塑性地震応答解析などコンピューターによるシミュレーション技術を用いた解析的研究も数多く行っています。その他、テクノスペース 15 に設置されている低温実験室の氷海水槽を用いた実験的研究も行っています。

建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか幅広い分野を対象に研究を行っています。

●主要な研究テーマ

1. 鉄筋コンクリート (RC) 造建物の耐震性能に関する研究

- 1-1 損傷低減のための耐震設計法並びに制震補強技術の開発
- 1-2 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究
- 1-3 超高層 RC 造建物の柱および柱梁接合部の構造性能に関する研究
- 1-4 海外の RC 造建物の耐震規定に関する調査・研究 etc

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- 2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究
- 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究(写真2)
- 2-4 制震構造建物の性能評価・設計法に関する研究
- 2-5 間柱型レンズダンパーの研究



写真1 大型構造物試験センターでの構造実験



写真2 折返しブレースの取付状況



写真3 間柱型レンズダンパーの実験



写真4 低温実験室における氷海構造物の実験

究・開発(写真3)

2-6 高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究 etc

3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

- 3-1 津波漂流物の衝突に関する研究
- 3-2 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究

(写真4)

- 3-3 海底地すべりに関する実験的研究
- 3-4 海洋建築物の設計指針策定に関する調査・研究 etc

4. その他、企業からの受託研究など

1-1 の制震補強技術は既に 100 棟以上の実施適用例があり、実際の地震防災対策に大いに役立っています。2-3 の折返しブレースや 2-5 のレンズダンパーのテーマも既に実施例が数例あり、合理的な構造システムとして注目されています。その他のテーマについても、研究成果を論文発表というかたちで情報発信することにより、構造技術の発展に貢献しています。

●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定しています。

●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行います。また、海洋構造物や陸上建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるために、自分たちでテーマを決めて小型模型実験を実施します。実験は学部祭にて公開します。

●着手条件

構造に興味があり、探究心旺盛な人を歓迎します。

計算工学研究室

1353 室

Teaching Staff



教授
近藤 典夫

●研究室紹介

当研究室は、大スパン建築物や海洋建築物の周辺あるいは都市空間において流体（風、海流、波など）がどのように流れていくのか、そして建築物および人間にどのような影響を与えているのかをメインテーマに掲げて研究を行っています。このような問題、特に高層建築物や波浪の影響下にある海洋建築物では、大きな揺れが発生しますので、それがどのような揺れ方になるのか、さらに人間の生活環境に対してどのように影響を及ぼすのかについて研究しています。当研究室では、上記のことを実施するに当たり、コンピューターによるシミュレーション手法を使って研究を行っています。

研究範囲は地上・海洋空間を問わず、あらゆる空間および興味あるものなら何もかも研究対象に加えていきます。

研究室の活動は、夏合宿、ゼミナール・卒業研究発表会、懇親会などを行い、楽しい一年間を過ごします。

●卒業研究のテーマ

卒業研究テーマは以下の通りです。他に希望するテーマでも卒業研究を行うことができます。

[1] 流体運動

- 1) 建築物まわりの気流の数値的研究
- 2) 建築物の内部を流れる気流の数値的研究
- 3) 乱流の数値的研究
- 4) 大型海洋建築物まわりの海流と波の数値的研究
- 5) 大型貯蔵タンク内のスロッシングの数値的研究
- 6) 都市のヒートアイランドの数値的研究
- 7) 津波の遡上に関する数値的研究

[2] 建築物の不安定振動

- 1) 風力を受けた建築物の渦励振・ギャロッピングの数値的研究
- 2) 海面下の海洋構造物の渦励振の数値的研究
- 3) 大型浮体構造物の波浪応答に関する数値的研究

[3] シェル構造解析

- 1) シェル構造物の静的・動的解析
- 2) 膜構造物の応力解析
- 3) 大型貯槽タンクの大変形解析・振動解析

●ゼミナールのテーマ

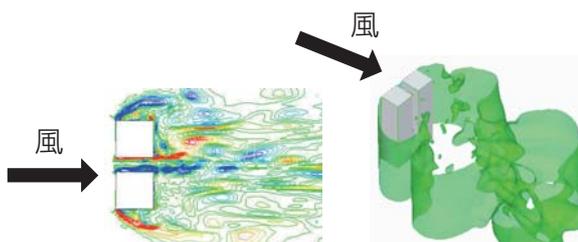
ゼミナールは卒業研究のための基礎的な事項についての学習とその応用問題を理解し、研究に必要な知識を修得します。内容としては以下を予定しています。

- 1) 弾性力学と流体力学の全般的な基礎学習
- 2) 有限要素法とその仕組み

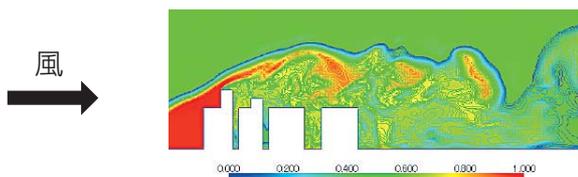
- 3) コンピューター・シミュレーションの仕方
- 4) フォートラン・プログラミング
- 5) 画像処理の方法（アニメーションの作り方）

●着手条件

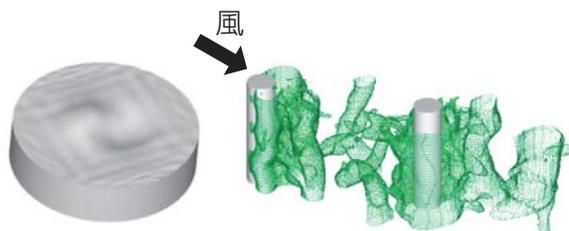
特に設けていませんが、説明会には必ず出席して下さい。やる気のある学生、大いに歓迎です。



卒業研究より：並列2正方形角柱まわりの流れ（渦度、圧力等値面）



卒業研究より：建物群まわりの温度分布（地面が太陽光で温められている。赤色：温度が高い領域、青色：温度が低い領域）



卒業研究より：
地震動を受けた
タンク内の液面動揺

卒業研究より：直列2円柱の背後での渦
の流れの様子



研究室のゼミ合宿：夏の軽井沢研修所

コンクリート構造工学研究室

1366室

Teaching Staff



教授
福井 剛

●研究室紹介

研究のこと：私たちの研究室では、建築構造および材料Ⅱの後半で学んだプレストレストコンクリート（以下PC）構造（オープンキャンパスで皆さんが乗って驚いていたあのコンクリートの板です）を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指して研究を進めています。PC構造は、①ひび割れが生じないために沿岸域においても耐久性が極めて高く、②30mを超える大スパン構造を作ることができるためにデザイン性に優れた建物を作ることが可能です。また③優れた復元性があるため耐震性にも優れています。これらの特性を活かして、東京スカイツリーの心柱や原子力発電所施設といった飛び抜けた高性能が要求される構造体や、2002FIFA ワールドカップや今年行われる東京オリンピック施設といったデザイン性を求められる建物などに広く使われています。私たちの研究室での合言葉は、「研究成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」です。信頼性が高くシンプルで独創性に富んだ研究成果は、国や学会の設計規準に多く採用されており、対外的に高い評価を受けています。

研究室の雰囲気：堅い話になってしまいましたが、私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員とゼミ生、卒研生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。ただし、ここぞと言うときは真剣勝負です。

年間行事

- ①顔合わせ会：所属が決まったゼミ生が卒研生、院生、教員と親睦を深めるために4月下旬に実施。
- ②夏合宿研究発表会：卒研生、院生が行っている研究の経過を発表するために厳格な雰囲気のなか9月初旬に実施。発表終了後は普段通りの無礼講タイム。
- ③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝うための行事。
- ④ほか：めでたいことなどがあれば適宜。

●ゼミナールのテーマ

- 1) マトリクス法による任意形骨組解析ソフトとファイバー法による断面解析ソフトの作成
- 2) 構造力学およびコンクリート構造の勉強会及び演習
- 3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル（CAD、エクセル、パワーポイント）の修得

テーマ1)、2)は、それぞれ週1回教員が、テーマ3)は週2回大学院生が担当しています。ゼミ生にはこれらのテーマから2つ以上を選択してもらいます。3年次には受講しなければならない大切な専門科目が目一杯あるので、そちらにも十

分な時間が割けるよう配慮しています。

●卒業研究のテーマ

- 1) 長期荷重がPC造建物の地震後の性能に及ぼす影響
- 2) アンボンドPC部材のせん断抵抗機構
- 3) RCおよびPC部材のせん断終局強度式の提案
- 4) PC有孔梁の合理的な設計法の開発
- 5) PC造柱梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 6) プレキャストPC圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法の提案

上記の卒業研究の内、1) 2)は実験を計画しています。苦勞は伴いますが体で感じる達成感は抜群です。3)～6)は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいかもしれません。研究テーマ名だけではワクワク感がないかも知れませんが、君たちが、真剣にこれらのテーマに取り組むとはまります。

●着手条件

ゼミに欠席しないことと卒研に没頭することを約束できることを最優先条件とします。卒研に注ぎ込む時間を十分に確保できるように取得単位数が一定以上であるとさらに良し。研究内容と研究室の雰囲気に馴染めることを確認するために研究室訪問で院生や教員の話聞いてください。



写真1 実験風景（試験体寸法6m×2.3m）



写真2 夏合宿

海洋空間利用工学研究室

1341 室



夏合宿 (河口湖)

Teaching Staff

教授
居駒 知樹助教
相田 康洋

●研究室紹介

当研究室は海洋再生可能エネルギー利用をはじめとして、海で利用する各種海洋建築物、海洋構造物が波や流れからどのような影響を受けて、どのように動くのかなどの波浪中の耐波性能の視点から設計を考える研究をしています。そのために波浪の性質なども研究の対象領域です。また、波浪だけでなく津波や高潮などの自然災害に関わる海洋波も研究対象であり、さらにそれらによる災害そのものや対策を考えることも当研究室の研究領域です。非常に研究領域が広がるため、必要な各種解析プログラムの開発やそのための理論構築、数値計算力学 (CFD) 的手法の開発を行っています。それらを駆使して、海上プラットフォームの新技術開発、波力発電・洋上風力発電浮体・潮流発電等のシステムの解析法開発・最適化、津波のような強非線形波浪による構造物への流体荷重や物体同士の衝突荷

重、津波被害予測と避難対策技術提案など、海洋空間を利用するために必要な工学技術全般に関する研究と提案をしています。

研究のキーワード: 浮体システム、海上・海域施設、流体解析、浮体挙動・振動、海洋再生可能エネルギー、津波災害・防災、強非線形海洋波、海洋空間利用・提案

●卒業研究のテーマ

卒業論文・修士論文に記載した研究テーマや、それぞれのテーマにまたがった横断的な研究テーマも含め、各自の意向に基づき卒業研究を選択して実施します。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは卒業研究で必要となる基礎的なスキル・知識の修得を目指します。具体的には前期に講義や実験・演習形式のゼミナールを通じ、各種理論や計算・実験方法を学びます。またいくつかのテーマに従い、国内外の研究論文のレビューを行いながら卒業研究に向けて論文の読み方や書き方を覚えます。後期は CAD やモデリングソフトの使い方を覚えながら模型設計とそれを対象にした理論計算・数値計算法をツールとして使えるようにし、卒業研究に備えます。

●着手条件

特に条件は求めないが、「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生、また大学院への進学希望者を歓迎します。巨大津波に対する防災や減災、避難に関する研究や、更なる海洋再生可能エネルギーの利用や開発など「海洋建築」に興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。



垂直軸型可変ピッチ翼水車の実海域実験



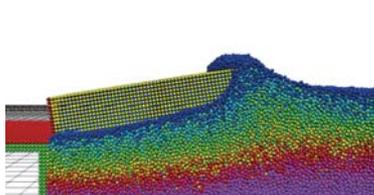
水柱振動型波力発電装置の水槽実験



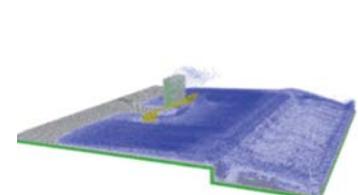
浮体式垂直軸型洋上風車モデル



粒子法による浮体乗り上げシミュレーションと実験の比較



浮体式垂直軸型洋上風車の実験模型



津波による建築物と浮体の衝突シミュレーション



建築物に作用する津波衝撃波圧に関する実験



津波による建築物間の縮流現象に関する実験

海洋構造デザイン研究室

1342 室



研究室的な学生達と行った夏合宿（群馬県 花咲温泉）

Teaching Staff



准教授
恵藤 浩朗

●研究室紹介

『海の“チカラ”で未来はもっと素敵になる』というコンセプトのもと、新しい価値を有する海洋建築物を提案し、海洋建築物の実現に向け技術的な課題を解決する研究活動を展開しています。そして「海」に求められる価値を最大限に発揮するデザインを考え、検証と改善を繰り返すクオリティの高いものを生み出す「デザイン思考」を身に付けた技術者の育成を念頭に指導します。皆で“楽しく”学べる、そんな研究室を君達と一緒に創れたらいいなと考えています！

<研究室の主な年間行事予定>

①ゼミ生歓迎会（4月末予定）、②タイピングコンテスト（7月）、③卒研・修論中間報告会（夏季）、④体験航海（8月）、⑤夏合宿（9月）、⑥卒研・修論最終報告会+打ち上げ（2月）、⑦卒業式、⑧お誕生会（各月）

●卒業研究のテーマ

「海」を利用した新しい価値、新しい社会を構築する海洋建築物を提案し、海の作用を直接受けるそれらの実現に必要な設計関連技術の全てが研究対象です。

- 1) 海洋建築物のニューコンセプトの提案とその実現可能性に関する技術的な検討
- 2) 海洋構造物と海洋波との相互干渉影響などを考慮した運

動応答特性の把握と性能評価

- 3) 係留システムを含めた大型浮体式海洋建築物の構造解析や、構造安全性の確保とその評価
- 4) ジャケット構造物の2次利用を目的とした健全性評価システムの構築
- 5) GIS（地理情報システム）などデジタル情報技術を活用した海洋建築物の適地選定手法の開発
- 6) 数値計算による生態系ネットワークの解明 など

●ゼミナールのテーマ

ゼミでは、卒業研究や就職活動、大学院生活で役立つ海洋や建築の基礎をしっかりと身に付けます。

- 1) 海洋建築物に関する基礎的な知識を深めます
- 2) PCのスキル（Officeによるレポートの書き方、CADを使用したモデリング、GISなど）を習得します
- 3) プログラミングを基礎の基礎から学びます
- 4) 有限要素法の構造解析ソフト開発を通して基礎的な数値シミュレーション能力を身に付けます

●着手条件

「海建」が大好きなこと以外はありません。必要な知識やスキルは研究室所属した後、共に学びましょう。新しいコンセプトの海洋建築物やその構造計画や設計に興味があれば、まずは研究室に来てください！

最新情報は
こちら→



Web



Instagram

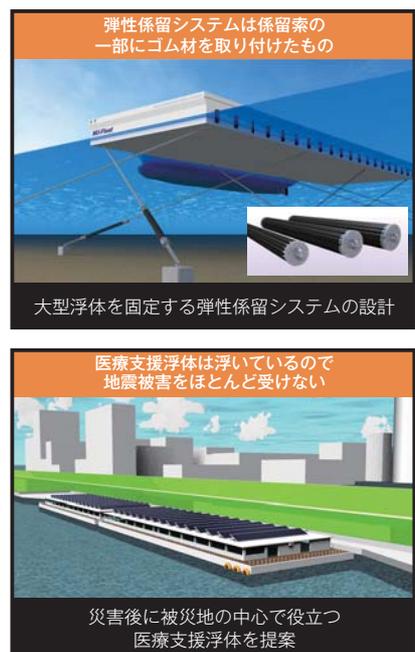
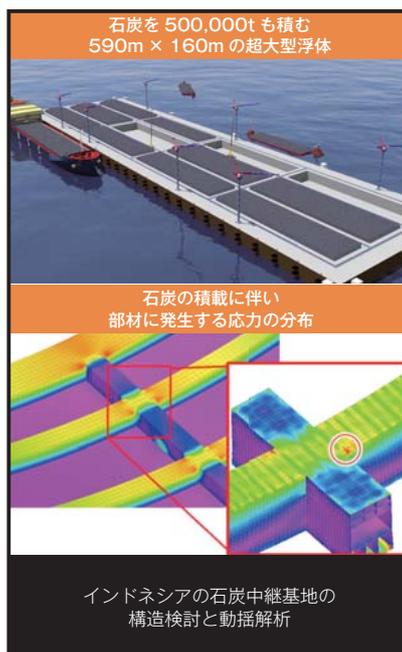


Facebook

Web : <https://etohiroaki4.wixsite.com/labo> (PCでの閲覧を推奨)

Instagram : https://www.instagram.com/marine_structural_design_lab/

Facebook : <https://www.facebook.com/msdl.nu/>



沿岸域工学研究室

1335 室

Teaching Staff

教授
小林 昭男助教
野志 保仁

●研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、(財)土木研究センターから客員教授を招聘し、企業からも上席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子（ベトナム）

●ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学ぶ
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学ぶ
- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学ぶ
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学ぶ
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算法を学ぶ
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ調査に参加できる
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになる
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の方法、海岸の環境問題が学ぶ
- 9) 懇親の場で先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ場も提供する

●卒業研究のテーマ

卒業研究の主題は次の通りです。春に現地踏査を行い、これらの主題に沿った海浜を対象にして研究を行います。研究の成果は、必ず社会全体に役立ちます。



海岸環境の修復活動（福岡県水島）



ゼミ生歓迎会の様子

1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発

2. 良好な海洋空間の利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷

●着手条件

海岸地形や海浜環境の再生・修復、防災工学に興味があり、当研究室のゼミナールを受講希望する学生は、研究室説明会に必ず出席して、個別面談を受けてください。受講条件は、研究室の行事や研究活動、就職活動に支障のない十分な成績と単位数を取得していること、さらに2年次までの必修科目や設計製図の単位を取得済であることとします。大学院進学については、個別面談時に相談してください。

●2019年度の卒業論文のテーマ

- ・角折海岸におけるはまなすの精突堤と11号ヘッドランド間での海浜変形機構の解明
- ・東条前原海岸における長期的変遷と現況再現
- ・大磯北浜海岸における複数の堆砂垣の効果観測に関する研究
- ・水難事故防止を目的とした海水浴場の利用者分布の調査研究
- ・犬吠崎の北側に隣接する君ヶ浜の変遷と飛砂

沿岸環境防災研究室

1334 室

Teaching Staff



准教授
星上 幸良

●研究室紹介

本研究室では、「沿岸域での防災と環境保全の両立」を基本テーマとして、海岸付近の物理・自然環境と人との係わりについて考究することを目的としています。

そのため「現場を把握する」ことを重視し、様々なフィールドを観察し、地域を学び、物事の意味を理解することからはじめます。また、民間コンサルの経験を活かし、研究やワークショップを通じプレゼン能力やマネジメント力、課題解決力等を鍛え、実社会で活躍できる人材育成を行います。さらに、地域や事業と連携した実際の研究活動を通して、高度な専門性だけでなく、広い視野と客観性、バランス感覚を養います。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、就活・進学のアドバイスに加えて、「ゼミ研」を通じ、卒業研究や実社会での活動に役立つ基礎的な素養を身に着けます。

- ・調査に参加し、現場の見方や環境問題を学びます
- ・広い視野と客観性を会得します
- ・コミュニケーション能力を向上させます
- ・バランス感覚と倫理観を育てます
- ・時間の使い方（マネジメント力）を学びます



フィールドワークの様子



小林・野志研究室との合同ゼミの様子

- ・プレゼン能力を鍛えます
- ・実環境に触れ、問題と課題を学びます
- ・防災、災害リスクについて正しく理解できます
- ・資格取得を支援します

●卒業研究のテーマ

国内外で課題を抱える沿岸域のフィールドを対象とし、以下のテーマで調査・研究を進めます。

【良好な環境保全を目指して】

- ・沿岸域での物理と環境に関する研究
- ・人為的要因による環境影響に関する研究
- ・ドローン等を活用した環境計測に関する研究

【安全安心な沿岸域を創造する】

- ・沿岸域での災害リスクに関する研究
- ・海岸保全の在り方や評価に関する研究
- ・沿岸の地域知、合意形成に関する研究

●着手条件

沿岸の環境保全や防災に興味のある学生、将来、調査やコンサルタントへの就職を志望する学生、海や沿岸に“愛”のある学生なら、誰でもゼミナールや卒研に着手できます。



震災復興状況調査写真



ドローンを活用した調査の様子



▲星上研
youtube
チャンネルは
こちら！



星上研 Instagram は
こちら！▶

HOSHIGAMIKEN_OFFICIAL

博士論文

+

修士論文

+

卒業論文・卒業設計

小林(直)研究室

修士論文

- ◆藤山翔己 山下埠頭における防災機能を有したリゾート施設の提案
～IR機能を取り入れた流通機能と観光機能を有した複合施設的设计
- ◆中村圭佑 植物工場を有した複合型研究開発施設的设计
～植物工場の産業としての自立に向けた連携拠点の提案
- ◆東角井雅人 水害避難機能を有したMICE施設的设计
～浅草における国際ビジネス拠点の提案
- ◆星野智美 清水港国際旅客船ターミナル計画

卒業論文・設計

- ◆大木友裕 次世代病院～廃線になった町の次世代公共機関の提案
- ◆小山田駿志 BORDERLESS ARCHITECTURE
～自国第一主義に対する建築的提案
サハラのお返し～砂漠の美味しい住み方
“街を釣る”ということ
～日本橋川における釣りを介した親水空間的设计
- ◆人見孝一 交わり～汚水処理施設を含む複合施設の提案
- ◆吉澤玄 建設業におけるロボット化・自動化技術の研究
～建設業界の人手不足の現状と改善に向けて
行ってらっしゃい。気をつけてね。
～商店街の既存ストックを活用した自立支援施設の提案
- ◆渡邊百花 新古典主義建築と近代建築の住宅代表作の関連についての研究
- ◆尾坂凌弥

桜井・寺口研究室

修士論文

- ◆唐崎雄亮 鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究
- ◆倉田直樹 津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度に関する研究
- ◆小林駿邦 蓄光式夜間誘導標識の効果的な設置方法に関する研究
- ◆関口潤耶 大規模防潮堤が宿泊施設からの景観や近隣観光地に与える影響

卒業論文

- ◆飯尾誠也 リゾートマンションにおける定住者とセカンドハウス利用者の防災意識の差異に関する研究～三浦半島沿岸地域を対象として
- ◆梅田政司 スーパーヨットの寄港に伴う地域への効果に関する研究
- ◆岡田寛冬 水位変動がダム湖の多目的利用に与える影響に関する研究
～ダム湖百選を対象として
- ◆越智源太 大規模災害時における市町村間の相互支援連携に関する研究
～東北3県と南海トラフ対策地域の比較
- ◆貝瀬慶伍 津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度に関する研究
～東日本太平洋沿岸の55市町村を対象としたアンケート調査
- ◆斉藤征大 市町村連携による避難困難地区の解消に関する研究
～平成30年7月豪雨被災地を対象として
- ◆鈴木勝智 日本海側の津波被害と津波碑の建立状態に関する研究
- ◆鈴木諒 みなとオアシスへの登録が港で実施されるイベント活動に与える影響
- ◆武内皆希彦 ため池の特性を活かした活用方法の現状と課題について
ため池百選を対象とした調査
- ◆竹野巧人 長距離フェリーの利用促進に関する研究
～8時間以上の航海時間を要する航路を対象とした調査
- ◆徳田凌 津波防災ワークショップの形式選定に関する研究
～静岡県の運営団体を対象とした調査
- ◆長澤敏樹 観光地における観光客の津波避難対策に関する研究
～中部・近畿・四国地方の浸水想定区域内にある観光施設を対象として
- ◆前田賢 調整池の多目的改修整備に関する研究
～政令指定都市および中核市における整備事例を対象として
- ◆横山正佑子 屋形船乗船時の日本人と外国人の興味対象の差異に関する研究
～ソーシャルメディアへの投稿写真とハッシュタグの分析
- ◆サカイ花 海上ウォーターパークの整備実態と効果に関する研究
～御前崎海水浴場と勝浦中央海水浴場を対象とした調査
- ◆西村有人 城郭における水堀の維持管理・活用に関する研究
～日本100名城を対象とした調査

佐藤研究室

修士論文

- ◆金井亮祐 栃木県栃木市における巴波川の舟運を活用した複合観光施設の提案

卒業論文・設計

- ◆大石展洋 City Blind Spot～見えていて見えないモノ
社の空間構成に関する研究～その8 参道空間の3D計測について
- ◆金子真 証跡のソセイ～埋め立てられて漁港における踏襲更新の手法
- ◆小林陽太 再生の滞～和泉川暗渠をケーススタディとした環境装置の建築と周辺空間利用の提案
- ◆中村美月

- ◆西村寿々美 私があなたに贈るもの～人生の終わりの提案
- ◆松下将也 水族館における飼育関連諸室に関する建築計画的な研究
～その3 キーバースペースの施設規模について
空へ上がる都市～海抜ゼロメートル地帯のリニアシティ
「切断」すること、それは「繋ぐ」こと
日本橋における歴史を切断した首都高速道路の再歴史化
- ◆山本裕貴 郊外慢街
- ◆横畑佑樹 ウラガワノシンシヨク
- ◆郎敬禹 なみだ日和～不登校児のための想いの場になる建築
- ◆渡邊康介 織の音が響き渡る時
- ◆宇津里緒奈 星景の方舟～豊稔と再生、エジプト神話に基づく宇宙軸
- ◆山内颯
- ◆三橋一貴

親水工学研究室(菅原)

修士論文

- ◆新井侑子 隅田川河岸にみる都市と水辺との係わりに関する研究
- ◆土橋大輔 まちづくりに資する貯木場水面の活用方策に関する研究
- ◆芳西優汰 漁港区域内施設の目的外使用による効果に関する研究

卒業論文

- ◆漆山雄大 都市の水辺の新たな活用に向けたキッチンポート事業の提案
～東京都の都市河川・運河を対象として
- ◆高橋大樹 国境離島におけるふるさと納税を用いた地域資源の保全・活用に関する調査研究
- ◆武田竜治 琵琶湖周辺における水郷集落の集落特性と水利形態の変容過程に関する調査研究
- ◆船山孝之 海水浴場利用者の視点からみた減少要因に関する研究
- ◆森下悠希 漁港区域内水面の目的外使用に関する調査研究
～全国の第4種漁港を対象にして
- ◆山田優祐・本間拓海 新潟県佐渡市に立地する舟小屋の利活用に向けた基礎的研究
～その1 佐渡島沿岸部における舟小屋の建築特性と維持管理体制
～その2 加茂湖湖畔に立地する舟小屋の建築特性及び変容過程
- ◆山本瑛博・三澤僚 川崎市臨海部における研究施設の立地分布の変遷と環境整備動向に関する調査研究
- ◆山本陸人・川口直也 海抜ゼロメートル地帯における大規模水害を想定した整備方策に関する調査研究
～その1 東京都江東5区における域内垂直避難を想定した避難所整備の実態
～その2 東京都江東5区の民間企業における水害対策の動向
- ◆平尾叶 全国のミズベリングプロジェクトにおける中間的組織の役割に関する調査研究

山本研究室

修士論文

- ◆鈴木一帆 民間活力導入による漁港ストックの有効活用に関する研究
～指定管理者制度導入を想定した検討

卒業論文

- ◆井野僚 外国人漁業就業者及び新規漁業就業者の増加要因に関する研究
- ◆柿崎龍平 津波被災市町村における観光復興のための外国人向けイベントの在り方に関する研究
- ◆加藤拓朗 指定管理者制度導入による新たな漁港管理の可能性に関する研究
- ◆窪田直生 海洋教育ハイオニアスクールプログラムの取り組みに関する調査研究
- ◆坂井律樹 復興事前準備の課題解決策に関する調査研究
- ◆鈴木晟一郎 舟屋集落における地域活性化方策に関する実態調査
～京都府伊根町・新潟県佐渡市を対象として
- ◆鳥海健太 震災遺構保存における行政と住民の合意形成に関する研究
～行政と住民の意識の差異
- ◆増田瑞希 海洋性スポーツの普及に寄与する総合型地域スポーツクラブの有効性に関する研究～海洋性スポーツを実施しているSC全国ネットワーク加入クラブを対象として
- ◆宮崎航太 フィッシャリーナの実態把握と成功要因に関する調査研究
- ◆宮本浩太郎 漁業学校の実態把握とそのあり方に関する調査研究
- ◆関本明日香 外国人観光客における災害種別避難誘導システム及び災害種別ビクトグラムの理解度に関する研究～神奈川県鎌倉市を対象地として
- ◆田澤七海 防災船着場周辺の観光地における外国人観光客の避難意識の実態調査
- ◆中尾友梨香 復興まちづくりに関する防災集団移転促進事業実施後の行政と住民の関係に関する研究

博士論文

+

修士論文

+

卒業論文・卒業設計

北嶋研究室

博士論文

- ◆難波隆行 高強度 CFT 短柱およびその構成要素の一軸圧縮下における挙動に関する研究
 - ◆波田雅也 折返し式プレースの構造特性に関する研究
- 修士論文
- ◆草川和広 多数回繰返し荷重を受ける RC 造十字形柱梁接合部の接合部挙動に関する研究
 - ◆坂本駿仁 レンズ型せん断パネルダンパー単体および LSPD 付き RC 造間柱の解析モデルに関する研究
 - ◆萩原悠太 氷海域における固定式海洋構造物の地震応答性状に関する研究
 - ◆森本竜 固有周期の変化率による建物損傷度の評価方法に関する基礎的研究
 - ◆渡邊瑞貴 衝撃荷重を受ける弾性部材の荷重評価に関する研究

卒業論文

- ◆环航・小島寛大 柱梁強度比が 1.5 と 1.9 の RC 造十字形柱梁接合部の多数回繰返し荷重実験
～その 1 実験概要および荷重-変位関係
～その 2 実験結果
- ◆伊藤祐仁 衝撃実験における荷重評価方法に関する検討
- ◆大野葵 セブ市の某校舎の免震補強設計に関する研究
- ◆北澤龍太郎 折返しプレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究
- ◆國府田有加 立体骨組モデルを用いた滑り基礎構造建物の解析的研究
- ◆小濱達・高橋信人 フラットプレート構造に関する基礎的研究
～その 1 鉛直荷重を受けるスラブの実験概要
～その 2 実験結果と FEM 解析
- ◆酒井輝・屋代拓海 氷海域における固定式海洋構造物に作用する氷荷重に関する実験的研究
～その 1 模型氷の作製と圧縮試験結果及び貫入試験の概要
～その 2 貫入試験結果
- ◆谷口涼・村上航太 等価線形化法に基づく制震補強設計法の適用性に関する研究
～その 1 梁曲げ降伏型 6 階建て建物の制震補強設計スタディー
～その 2 層崩壊する 10 階建て建物の制震補強設計スタディー
- ◆松浦昂汰 海水・海砂を使用したコンクリートの材料性能に関する文献調査

近藤研究室

修士論文

- ◆植田翔 近接するくい違い配置 2 円柱の流力振動特性に関する数値的研究
- ◆櫻井郁斗 円筒形タンク内の非線形液面動揺に関する数値的研究

卒業論文

- ◆安達大樹 2 正方形角柱のギャロッピング振動に関する数値解析
- ◆池田晃太郎 LES による円柱まわりの流れ計算
- ◆伊藤蒼生 並列 2 角柱に作用する流体力とその振動特性に関する数値計算
- ◆鈴木祐斗 低スクルートン数における単一円柱の流力振動解析
- ◆田中賢吾 並列 2 円柱の流体特性に関する数値シミュレーション
- ◆野井建都 直列 2 円柱のインライン方向とクロスフロー方向の流力振動に関する数値解析
- ◆半澤快斗 3 次元矩形容器の液面動揺に関する非線形数値シミュレーション
- ◆野口浩大 換算速度の変化によるくい違い配置 2 角柱の流体力と振動特性の相違に関する数値解析
- ◆馬彪 円筒形タンク内の液面動揺に関する非線形数値解析

福井研究室

修士論文

- ◆朝倉弘貴 鉛直荷重を受ける PC 骨組の地震後の力学的性状に関する実験的研究
- ◆榎本憲嗣 平面保持仮定を用いたアーチ機構のせん断伝達機構に関する研究
- ◆斉田健志 PC 部材のせん断設計指針の提案

卒業論文

- ◆佐藤安優美・深谷勇介・茂木一将 第 1 種 PC 骨組の地震時および地震終了後の力学的挙動に関する解析的研究
～その 1 研究背景及び調査結果
～その 2 解析概要及び解析結果
～その 3 解析結果及び考察
- ◆鈴木ありさ プレストレストコンクリート骨組の保有水平耐力とヒンジ形成位置
- ◆峯岸祐太・宮本侑汰・中山海征・河合勇弥・宮原椋一 鉛直荷重を受ける PC 骨組の地震時及び地震後の性状に関する実験的研究
～その 1 実験概要
～その 2 実験結果（破壊経過と諸変形に関する考察）
～その 3 実験結果（ひずみと曲げモーメントに関する考察）
- ◆野尻エリカ PC 部材せん断耐力の実験結果への適合性に対する検討

- ◆高木瞭 平面保持仮定に基づいたアーチ機構のせん断耐力式
- ◆金澤寛太 円形開口を有する PC 梁のせん断設計法の提案
- ◆小山侑華 PC 外側柱梁接合部のせん断抵抗モデル
- ◆門口達矢 水平荷重を受ける 2 本の異種 PHC 杭の設計用曲げ耐力に関する考察

居駒・相田研究室

修士論文

- ◆志柿友基 離散渦法を用いた流れ中における固定された複数円柱の相互作用に関する研究
- ◆巢河香里 浮体式 PW-OWC 型波力発電装置の運動特性と一次変換特性に関する研究
- ◆福永勇太 MPS 陽解法による津波漂流物の衝突シミュレーション法に関する基礎的研究

卒業論文

- ◆城所秀丞 耐用年数を超過したジャケットストラクチャーの振動解析及び損傷同定に関する基礎的研究
- ◆竹尾知峻 粒子法による数値造波水槽の開発に関する基礎的研究
- ◆野口隆幸 OWC 型波力発電装置を搭載した大型浮体の弾性応答及び縦曲げモーメントに関する研究
- ◆藤島健英・西澤行哉 縦軸風車を搭載したムーンプールを有するポンツーン型浮体の波浪中応答への ジャイロ効果に関する基礎的研究
- ◆古川景菜 プロジェクティングウォールの壁厚が PW-OWC 型波力発電装置の一次変換性能に与える影響に関する研究
- ◆星野龍哉・舎川知弘 津波漂流物の衝突力に与える喫水の影響に関する実験的研究
- ◆宮本大河・島田哉太 東京湾における津波漂流物の漂流傾向に関する基礎的研究
- ◆秋山莉亜 高齢者の歩行速度を考慮した津波避難困難地域の抽出と人的被害低減対策に関する基礎的研究
- ◆清水康貴 起重機船を使用した洋上風車基礎杭設置作業における基礎杭の挙動に関する基礎的研究
- ◆高橋優太 OWC 型波力発電装置の空気室容積や形状の違いが空気室特性に及ぼす影響に関する実験的研究
- ◆植谷彩 急斜面における係留される浮体の運動特性に与える係留索の影響に関する研究

惠藤研究室

修士論文

- ◆飯塚功二 大型石炭貯蔵浮体の石炭積載状態に応じた変形と塑性歪みに関する基礎的研究
- ◆海保弘大 SLWR が接続する浮体システムの動的挙動解析
- ◆木原寛明 離島港湾における係留船舶の消波装置による動揺低減効果に関する基礎的研究
- ◆山口兼右 干潟域における浮遊を考慮した生態系（二枚貝）ネットワークに関する基礎的研究

卒業論文

- ◆林誠之輔・赤羽佑斗・下地海人 大型石炭貯蔵浮体のモデル化に関する基礎的研究
- ◆新井智大・田邊晴香 東京湾における二枚貝浮遊幼生の沈降着底に関する基礎的研究
- ◆石橋紀里・宇田川大輝 首都直下地震における医療支援浮体の有用性に関する基礎的研究
～医療施設間の連携を考慮した重傷者搬送シミュレーション
- ◆鹿島瞳 弾性係留索によって係留された大型浮体の運動応答特性
- ◆熊澤一樹 係留船舶の消波装置の設置に伴う動揺低減効果に関する基礎的研究
- ◆高嶋実和・齋藤和輝 超大水深型 SLWR の構造特性把握に関する基礎的研究
- ◆吉田璃子 カテナリー係留された大型石炭貯蔵浮体の運動応答特性に関する基礎的研究

小林（昭）・野志研究室

修士論文

- ◆梅田天斗 周期的波向変動場における護岸周辺の地形変化予測に関する研究
- ◆目野玄也 ディープラーニングを用いた海浜変形診断システムの開発に関する研究
- ◆山本貴也 護岸損傷箇所からの土砂吸出しによる裏込めの陥没形状の推算に関する研究
- ◆渡部末樹久 海浜における遷急線周辺地形の形成機構に関する研究

卒業論文

- ◆小林聖宙・小林大輝・平野雄大・平山拓弥 角折海岸におけるはまなすの精突堤と 11 号ヘッドランド間での海浜変形機構の解明
- ◆近藤拓海・長谷川尚輝 東条前原海岸における長期的変遷と現況再現
- ◆高橋紘一朗・岩田泰宏・芹澤秀太・半澤亮佑 大磯北浜海岸における複数の堆砂垣の効果観測に関する研究
- ◆小関りな 水難事故防止を目的とした海水浴場の利用者分布の調査研究
- ◆渡辺聡・加藤颯 犬伏崎の北側に隣接する君ヶ浜の変遷と飛砂

教員研究業績 研究室活動業績

小林(直)研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆服部立：Singapore Aquatecture- シンガポール市街地における貯水池の建築化 -、日本建築学会(北陸)建築デザイン発表会、2019.9
- ◆石川晃：保存から始まるこれからの文化財～市有形文化財の動態保存のモデル～、日本建築学会(北陸)建築デザイン発表会、2019.9
- ◆大関慶信：湯吊 - 時避難施設としての温泉利用 -、日本建築学会(北陸)建築デザイン発表会、2019.9
- ◆住吉文登：海都之交 - 都市は水没を受け入れるか? -、日本建築学会(北陸)建築デザイン発表会、2019.9
- ◆間田真矢、小林直明：都心型幼稚園における幼児教育にふさわしい建築空間の設計手法に関する研究、第52回日本大学生産工学部学術講演会デザイン・マネジメント部門 pp.451-454、2019.12
- ◆間田真矢、小林直明：都心狭小個人住宅の内包化された庭によるコミュニティ形成に関する研究、第52回日本大学生産工学部学術講演会デザイン・マネジメント部門 pp.455-456、2019.12

著書・執筆等

- ◆小林直明・伊澤 岬：防災まちづくりユニバーサルデザイン計画手法の実証的研究 -3.11復興マトリクスプログラム-、国際津波防災学会報告2020、国際津波防災学会、2020.2

所属学生の受賞等

- ◆服部立：第50回毎日・DAS学生デザイン賞 グランプリ「金の卵賞」、Singapore Aquatecture - シンガポール市街地における貯水池の建築化 -、DAS:総合デザイナー協会・毎日新聞社、2019.5
- ◆小山田駿志 他：2019年度支部共通事業日本建築学会設計競技全国入選タジマ奨励賞、都市の涵養 - 雨水濾過による団地の再興 -、日本建築学会、2019.9
- ◆住吉文登 他：2019年度支部共通事業日本建築学会設計競技関東支部入選、本からはじめる地縁再興、日本建築学会、2019.9

学外活動(講演・講義等)

- ◆小林直明 他：3・11復興プロジェクトの挑戦とその射程 - 建築と土木、エネルギーの多角的融合の活動から -、「3・11復興プロジェクトの挑戦とその射程」出版記念講演会、2019.4
- ◆小林直明：文化財建造物サステナブルエネルギー利用プロポーザル、学校法人、2019.4
- ◆小林直明：福島県3.11被災地復興公園プロポーザル、NPO法人、2019.4
- ◆小林直明・會田恵・安達祥人・古角虎之介・澤田実和・福田晃平・山戸善伸・吉沼直輝：茨城県美浦村霞ヶ浦大山区エアープレーン・水上スポーツ地方創生複合施設プロポーザル、茨城県美浦村、2020.2
- ◆小林直明：3.11被災地アグリカルチャービジネス複合施設プロポーザル、企業法人、2020.2
- ◆小林直明：3.11復興マトリクスプログラム提案プロポーザル、地方公共団体、2020.3

学外活動(委員会活動等)

- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会「歴史的価値を有する大規模木造宿泊施設の安全性能確保特別調査委員会」委員
- ◆日本建築学会海洋建築部会委員
- ◆SDC太陽エネルギーデザイン研究会 理事
- ◆水上空港ネットワーク研究会 理事

海外出張・海外調査

- ◆北欧建築・アルヴァ・アアルト、アルネ・ヤコブセン、グンナール・アスプルンド調査研究、2019.8.11-19

桜井・寺口研究室

審査付論文

- ◆寺口敬秀・桜井慎一・野口翔・大津俊裕・丸山敬之：クルーズ船寄港地に適する港の選定手法に関する研究 - 北海道を対象とした寄港魅力度の算出と評価 -、日本沿岸学会誌、Vol.32 No.1、pp.11-20、2019.6
- ◆寺口敬秀・桜井慎一・園井樹：野口翔：水上飛行機の就航地に適する漁港の選定に関する研究 - 三陸地方を対象とした分析 -、土木学会論文誌 D3 (土木計画学)、Vol.75 No.5、pp.305-314、2019.12

口頭発表・ポスター発表

- ◆寺口敬秀・桜井慎一・池ヶ谷典宏：砲台跡地の利活用方針に関する研究 - 東京湾要塞を対象とした調査 -、第59回土木計画学研究会発表会：春大会講演集 Vol.59、P.218、2019.6
- ◆唐崎雄亮・桜井慎一・寺口敬秀・中田佳宏：海上ウォーターパークの整備実態と効果に関する研究 - 運営事業者と利用者に対するアンケート調査結果 -、日本沿岸学会研究会研究討論会2019講演概要集 No.32、講演番号 9-5、2019.7
- ◆小林駿邦・桜井慎一・寺口敬秀：蓄光式夜間誘導標識の効果的な設置方法に関する研究 - 設置間隔別視認性評価の実験結果 -、日本沿岸学会研究会研究討論会2019講演概要集 No.32、講演番号 10-1、2019.7
- ◆関口潤耶・桜井慎一・寺口敬秀：大規模防潮堤が宿泊施設の景観や近隣観光地に与える影響に関する研究 - 岩手県および宮城県を対象とした調査 -、日本沿岸学会研究会研究討論会2019講演概要集 No.32、講演番号 10-2、2019.7
- ◆寺口敬秀・桜井慎一・野口翔：クルーズ振興に向けた自治体の取り組みと効果に関する研究 - 全国12市を対象としたヒアリング調査結果 -、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.31-32、2019.9
- ◆海老原碧・桜井慎一・寺口敬秀・野口翔・倉田直樹：離島に寄港するクルーズ船の効果と課題に関する研究、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.33-34、2019.9
- ◆前田賢・桜井慎一・寺口敬秀・鷹島充寿・海老原碧：調整池の多目的改修整備

- に関する研究 - 政令指定都市における整備事例の調査 -、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.35-36、2019.9
- ◆横山正祐子・桜井慎一・寺口敬秀・関口潤耶：屋形船乗船時の日本人と外国人の興味対象の差異に関する研究 - ソーシャルメディアへの投稿写真の分析 -、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.37-38、2019.9
- ◆小林駿邦・桜井慎一・寺口敬秀・小坂翔平：港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存に関する研究、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.39-40、2019.9
- ◆関口潤耶・桜井慎一・寺口敬秀・藤田優美：ウォーターフロント住宅における居住環境意識の経年変化に関する研究 - 東京・南千住と千葉・幕張の集合住宅を対象とした調査 -、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.41-42、2019.9
- ◆唐崎雄亮・桜井慎一・寺口敬秀：鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究 - 東海地方沿岸3県を対象とした線路横断必要地区の抽出と現状 -、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.43-44、2019.9
- ◆倉田直樹・桜井慎一・寺口敬秀：津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度に関する研究 - 補助金制度や津波避難ビル指定条件等に関するヒアリング調査結果 -、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.45-46、2019.9
- ◆長澤敏樹・桜井慎一・寺口敬秀・唐崎雄亮：観光地における観光客の津波避難対策に関する研究 - 静岡県伊豆半島を対象とした現状調査 -、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.47-48、2019.9
- ◆斎藤征大・桜井慎一・寺口敬秀・唐崎雄亮：避難計画における避難所と河川の関係性についての研究 - 西日本豪雨被災地である岡山県を対象とした調査 -、2019年度日本建築学会大会(北陸)学術講演梗概集2019(海洋建築)、pp.49-50、2019.9
- ◆徳田凌・桜井慎一・寺口敬秀：津波浸水想定区域における防災ワークショップ

教員研究業績 研究室活動業績

の開催状況に関する研究 - 静岡県沿岸の21市町村を対象とした調査 -、2019年度日本建築学会大会(北陸) 学術講演梗概集 2019 (海洋建築)、pp.51-52、2019.9

- ◆ 越智源太・桜井慎一・寺口敬秀・野口翔：大規模災害時における市町村間の相互支援連携に関する研究 - 南海トラフ地震被災想定地域の自治体を対象としたアンケート調査 -、2019年度日本建築学会大会(北陸) 学術講演梗概集 2019 (海洋建築)、pp.53-54、2019.9
- ◆ 鷹島充寿・桜井慎一・松田真一：開発行為に伴い設置された調整池に係る諸元情報の管理実態に関する研究、土木学会、2019年度全国大会第74回年次学術講演会梗概集、講演番号第Ⅱ部門Ⅱ-182、2019.9
- ◆ 海老原碧・桜井慎一・寺口敬秀：離島に寄港するクルーズ船の効果と課題に関する研究 - 寄港実績のない有人離島を対象とした調査 -、令和元年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.577-578、2019.12
- ◆ サカイ花・桜井慎一・寺口敬秀・唐崎雄亮：海上ウォーターパークの整備実態と効果に関する研究 - 御前崎海水浴場の利用者を対象として -、令和元年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.579-580、2019.12

所属学生の受賞等

- ◆ 関口潤耶：日本沿岸域学会研究討論会 2019 優秀講演表彰、大規模防潮堤が宿泊施設の景観や近隣観光地に与える影響に関する研究 - 岩手県および宮城県を対象とした調査 -、日本沿岸域学会、2019.11
- ◆ 唐崎雄亮：2019年度日本建築学会大会(北陸) 海洋建築委員会若手優秀発表賞、鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究 - 東海地方沿岸3県を対象とした線路横断必要地区の抽出と現状 -、日本建築学会、2019.11
- ◆ 小林駿邦：2019年度日本建築学会大会(北陸) 海洋建築委員会若手優秀発表賞、港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存に関する研究、日本建築学会、2019.11
- ◆ 海老原碧：令和元年度第63回日本大学理工学部学術講演会優秀発表賞、離島に寄港するクルーズ船の効果と課題に関する研究 - 寄港実績のない有人離島を対象とした調査 -、日本大学理工学部、2020.1
- ◆ 関口潤耶：日本大学部科校長賞、日本沿岸域学会研究討論会 2019 優秀講演表彰受賞、日本大学理工学部、2020.3
- ◆ 唐崎雄亮：日本大学部科校長賞、2019年度日本建築学会大会(北陸) 海洋建築委員会若手優秀発表賞受賞、日本大学理工学部、2020.3
- ◆ 小林駿邦：日本大学部科校長賞、2019年度日本建築学会大会(北陸) 海洋建築委員会若手優秀発表賞受賞、日本大学理工学部、2020.3

学外活動(講演・講義等)

- ◆ 寺口敬秀：スペイン・マヨルカ島における古代ローマ船水中発掘フィールドスクールについて、2019年度第1回アジア水中考古学研究所東日本会員連絡会、2019.6

学外活動(委員会活動等)

- ◆ 桜井慎一：船橋市・開発審査会 会長
- ◆ 桜井慎一：横須賀市・西地区漁港海岸整備計画策定検討委員会 委員長
- ◆ 桜井慎一：船橋市・まち・ひと・しごと創生懇話会 委員
- ◆ 桜井慎一：船橋市・JR南船橋駅南口市有地活性化専門委員会 委員長
- ◆ 桜井慎一：館山市・建設工事総合評価委員
- ◆ 桜井慎一：館山市・第三中学校改築工事基本設計業務委託提案審査委員会 委員
- ◆ 桜井慎一：文部科学省科学技術動向研究センター・科学技術専門家ネットワーク専門調査員
- ◆ 桜井慎一：日本沿岸域学会 理事
- ◆ 桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆ 桜井慎一：日本建築学会・海洋建築津波等防災小委員会 主査
- ◆ 寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築津波等防災小委員会 幹事
- ◆ 寺口敬秀：石油技術協会・大水深掘削技術分科会

海外出張・海外調査

- ◆ 寺口敬秀：古代ローマ時代の沈没船調査および発掘フィールドスクール、スペイン・マヨルカ島、2019.4.27-5.6
- ◆ 桜井慎一：北米諸都市のウォーターフロント開発と建築デザインの実態調査、米国(シアトル、ボストン、ニューヨーク、ボルチモア、ワシントンDC、ニューオリンズ、ロサンゼルス、ラスベガス、サンフランシスコ、ホノルル)およびカナダ(バンクーバー、トロント)、2019.8.6-9.8

研究助成・受託研究

- ◆ 桜井慎一：文部科学省科学研究費・基盤研究(C)、東日本におけるクルーズ客船の寄港地選定
- ◆ 桜井慎一、寺口敬秀：研究奨励寄付金、日本沿岸域学会、鉄道線路が津波避難の阻害要因とならないための適切な横断施設設置場所の検討
- ◆ 寺口敬秀：研究奨励寄付金、一般財団法人みまと総合研究財団、クルーズ船寄港地における「みまとオアシス」の認定効果に関する研究

佐藤研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 金井亮祐・佐藤信治：遊び場の際に現れる山車伝承 - 栃木市における子供の遊び場空間の構成を参考にした祭り子供を結ぶ建築 -、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.118-119、2019.9
- ◆ 篠原健・佐藤信治：不時着する命の杜、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.348-349、2019.9
- ◆ 上田紗矢香・佐藤信治：カンボジア王国シェムリアップ州における観光施設計画 - トンレサップ湖の複合水上交通拠点の設計 -、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.356-357、2019.9
- ◆ 宮嶋悠輔・佐藤信治：東京湾湾口における複合観光施設を併設した国際海上コンテナターミナルの提案、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.370-371、2019.9
- ◆ 渡辺真理恵・佐藤信治：意職住 - 意思のある人々が住み職で復興する -、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.150-151、2019.9
- ◆ 根本一希・佐藤信治：足跡の行方 - 生を具現化した風景がつくる死と人との新しい距離感 -、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.154-155、2019.9
- ◆ 蒲生良輔・佐藤信治：統合型リゾートとしての横浜市山下ふ頭開発計画 - 日本文化をテーマとした複合観光施設の設計 -、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.168-169、2019.9
- ◆ 山本淳樹・佐藤信治：古街新都、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.170-171、2019.9
- ◆ 勝部秋高・佐藤信治：水都の樹冠 ゼロメートル地帯の道しるべとなる防災・

- 避難公園、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.194-195、2019.9
- ◆ 山本社一郎・佐藤信治：極夜の篝火 - 冬の北極海に浮かぶアイス・キャンブ -、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.382-383、2019.9
- ◆ 高橋遼太郎・佐藤信治：雫の紡ぎ手 - ソマリアに建つウォーターウェルネスキャンプの提案 -、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集、pp.384-385、2019.9
- ◆ 永富快・佐藤信治：沖合漁業を対象とした浮体式水産基地の提案 - 小笠原諸島父島沖における物流及び観光拠点の設計 -、日本建築学会大会(北陸) 学術講演会・建築デザイン発表会概要集 pp.430-431、2019.9
- ◆ 佐藤信治 他：i-CST 船橋天文台の開発と突発天体観測プロジェクト、理工学研究所講演会 先端研究推進プロジェクト研究報告会、2019.12
- ◆ 三橋一貴・佐藤信治：星景の方舟 - 豊穡と再生 - エジプト神話に基づく宇宙軸 -、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.599-600、2019.12
- ◆ 西村寿々美・佐藤信治：終末期における在宅での看取りと家族と患者間での別れのできる施設の提案、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.601-602、2019.12
- ◆ 宇津里緒奈・佐藤信治：不登校児のための故郷村の設計、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.603-604、2019.12
- ◆ 渡邊康介・佐藤信治：ブラジル連邦共和国リオデジャネイロ州スラム街の再開発の提案、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.605-606、2019.12

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆大石展洋・佐藤信治：暗空間の開放と再提案、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.606-607、2019.12
- ◆佐藤信治：山本裕貴：空中都市-海拔ゼロメートル地帯のリニアシティ-、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.608-609、2019.12
- ◆小林陽太・佐藤信治：都市港湾における海での空間体験のデザインとそれにより海への意識を改革する港の提案、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.610-611、2019.12
- ◆山内颯・佐藤信治：伝統と生活の再編、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.612-613、2019.12
- ◆横畑佑樹・佐藤信治：日本橋における非日常空間への回帰、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.614-615、2019.12
- ◆郎敬禹・佐藤信治：次世界の楽しみ、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.616-617、2019.12

著書・執筆等

- ◆佐藤信治 他著：第13回 JIA 関東甲信支部大学院修士設計展、(株)総合資格学院、2019.3
- ◆佐藤信治 他編・著：OASIS 加盟校学生作品集「2019年度版」、エーアンドエー株式会社、2019.8
- ◆佐藤信治 他編・著：新訂版空間デザインを学ぶ、(株)DTP 出版、2019.9
- ◆佐藤信治 他編・著：住宅課題賞 2019「建築系大学住宅課題賞作品展」、株式会社総合資格、2019.11

作品等

- ◆佐藤信治・山本壮一郎・篠原健・郎敬禹・鄭波+中国建築技術集团有限公司：中国人民共和国 西安華山 Project2019、陝西省農墾集團有限責任会社+華星（上海）実業発展有限公司、2019.8
- ◆佐藤信治+ AtelierK、鄭波+中国建築技術集团有限公司：中国人民共和国 青島国際職業教育科技城会展中心修繕詳細計画及建築単体方案設計征集項目 Project2020、青島国際職業教育科技城股份有限公司、2020.2

所属学生の受賞等

- ◆佐々木秀人：高度外国人材の誘致を目指した複合研究施設の提案-滋賀県大津市琵琶湖湖畔における滞在型学術交流施設の設計-Proposal of a complex research facility aimed at attracting highly talented foreign workers - Design of residential academic exchange facilities in Lake Biwa, Otsu City, Shiga Prefecture -, 第17回 JIA 大学院修士設計展 2019 出展、2019.3
- ◆勝部秋高：最優秀賞、水都の樹冠 ゼロメートル地帯の道しるべとなる防災・避難公園、第21回千葉建築学生賞、JIA（日本建築家協会）、2019.3
- ◆勝部秋高：市民賞、水都の樹冠-ゼロメートル地帯の道しるべとなる防災・避難公園-、第21回千葉建築学生賞、JIA（日本建築家協会）、2019.3
- ◆根本一希：特別賞、痕跡の行方-生を具現化した風景がつくる死と人の新しい距離感-、第21回千葉建築学生賞、JIA（日本建築家協会）、2019.3
- ◆渡辺真理恵：都市・建築部門 1位、意職住-意思のある人々が住み職で復興する-、デザイン女子 No.1 決定戦 2019NAGOYA「卒業設計展・「女子」という視点」、デザイン女子 No.1 決定戦実行委員会、総合資格学院・株式会社テラ・株式会社エイブル、2019.3
- ◆高橋遼太郎：クライン賞、ウォーターウェルネスクャンプ、2019 赤レンガ卒業設計展、赤レンガ卒業設計展 2019 実行委員会、2019.3
- ◆山本淳樹・蒲生良輔・三枝晃・西村寿々美・郎敬禹：金賞、衣的建築キルコス 国際建築設計コンペティション 2018 寒 / 暑 Heat and Cold: Embracing the

Climatic Extremes、2019.3

- ◆上田紗矢香：カンボジア王国シエムリアップ州における観光施設計画-トンレサップ湖の複合水上交通拠点の設計-Tourism facility planning in Siem Reap province of Kingdom of Cambodia- Design of complex water transportation base of Tonle Sap Lake -, 第42回 学生設計優秀作品展-建築・都市・環境-、2019.5
- ◆笹川雄基：2019年度支部共通事業・第60回全国大学・高専卒業設計展示会出展、日本建築学会主催、2019.5
- ◆横畑佑樹・山本壮一郎・中村美月・大石展洋・大久保将吾・駒形史紗・白杵葵：グランプリ、歴史的空間再編コンペティション 2019（第8回）、2019.11
- ◆根本一希・勝部秋高：全国入選・佳作、生業団地、2019年度支部共通事項 日本建築学会設計競技「ダンチを再考する」、日本建築学会・(株)タジマルフینگ、2019.9
- ◆大石展洋・中村美月・渡邊康介・小山田駿志：全国入選・タジマ奨励賞受賞、都市の涵養-雨水濾過による団地の再興-、2019年度支部共通事項日本建築学会設計競技「ダンチを再考する」、日本建築学会・(株)タジマルフینگ、2019.9
- ◆山本裕貴：第63回日本大学理工学部学術講演会・海洋建築部会ポスター発表優秀発表賞、日本大学理工学部、2020.1

学外活動（講演・講義等）

- ◆佐藤信治：地域連携観光ワーキング 2018 年度成果報告、秋田産業サポータークラブ総会、2019.3
- ◆佐藤信治：湯沢市の未来について日本大学の学生と考えました、秋田県湯沢市役所内1階市民ホール、2019.9
- ◆佐藤信治：地域連携観光ワーキング 2019 年度成果報告、秋田産業サポータークラブ総会、2020.2

学外活動（委員会活動等）

- ◆(株)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会 委員
- ◆(株)日本建築学会 JABEE 学部課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆(株)日本建築学会 JABEE 修士課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆(株)東京建築士会
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会 委員
- ◆千葉県建築学生賞 運営委員会 委員
- ◆秋田産業サポータークラブ 幹事
- ◆秋田産業サポータークラブ地域連携観光ワーキング 主催
- ◆(株)海洋環境創生機構運営委員会 委員
- ◆秋田県能代市産業振興アドバイザー
- ◆秋田県登録文化財所有者の会 幹事

海外出張・海外調査

- ◆ペルー共和国チチカカ湖の水上集落の現地調査、ペルー共和国、2019.3.15-23
- ◆西安市華山 Project「華陰農場・現代農業生態観光総合体」のため、中華人民共和国・西安市、北京市、2019.8.13-16

研究助成・受託研究

- ◆受託研究：東京工業大学科学技術創成研究院 先進エネルギー国際研究センター（A.E.S.）、野村総合研究所、竹中工務店、戸田建設、マルハニチロ、横河電機他、浜名湖館山寺温泉地区スマートコミュニティプロジェクト

親水工学研究室

審査付論文

- ◆菅原 遼・畔柳 昭 雄：Trend of Utilization of Ocean Space according to Structural Form of Oceanic Architectures、Proceedings of the ASME2019 38th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering OMAE2019、pp.1-6、2019.6
- ◆菅原遼・畔柳昭雄：日本橋川の水辺利用の取り組みに係わる組織団体の変遷とその役割に関する調査研究、環境情報科学学術研究論文集 33 pp.289-294、2019.12

口頭発表・ポスター発表

- ◆菅原遼・畔柳昭雄：地域活性化に資する水上アクティビティの役割に関する調査研究-都市河川を拠点に活動する SUP 団体の活動実態と課題-、2019年度日本沿岸学会研究討論会、講演番号 13-1、2019.7
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：港湾区域内の水辺の飲食店の開設経緯と関連法制度に関する調査研究、2019年度日本沿岸学会研究討論会、講演番号 12-3、2019.7
- ◆田中孝登・菅原遼・畔柳昭雄：東京都海上公園の指定管理者による水辺環境

教員研究業績 研究室活動業績

- の利用管理に関する調査研究、2019年度日本沿岸学会研究討論会、講演番号9-1、2019.7
- ◆本間拓海・山田優祐・菅原遼・畔柳昭雄：佐渡島における舟小屋の現状に関する調査研究-その1加茂湖周辺の漁業集落の人口動態の変容-、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、pp.23-24、2019.9
 - ◆山田優祐・本間拓海・菅原遼・畔柳昭雄：佐渡島における舟小屋の現状に関する調査研究-その2加茂湖湖畔における舟小屋の分布状況とその空間構成-、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、pp.25-26、2019.9
 - ◆野中康太郎・菅原遼・畔柳昭雄：洪水災害発生前後における被災住民の避難行動過程に関する調査研究-岩手県岩泉町における2016年台風10号を対象として-、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、pp.213-214、2019.9
 - ◆畔柳昭雄・菅原遼：水と緑の公私計画論に関する研究-その8川床を通して見た水辺の空間利用に関する調査研究-、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、pp.667-668、2019.9
 - ◆菅原遼・畔柳昭雄：水と緑の公私計画論に関する研究-その9東京都区部における親水公園の空間利用・管理の実態に関する調査研究、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、pp.669-670、2019.9
 - ◆武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：水と緑の公私計画論に関する研究-その10琵琶湖流域における水郷集落の立地特性と水利施設の関係性に関する調査研究-、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、pp.671-670、2019.9
 - ◆青木秀史・菅原遼：水と緑の公私計画論に関する研究-その11多摩川河川敷における休憩茶屋の成立要因-、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、pp.673-674、2019.9
 - ◆小海諄・畔柳昭雄・菅原遼：水と緑の公私計画論に関する研究-その12自然認識に基づく児童の「遊び場」に関する一考察-、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、pp.675-676、2019.9
 - ◆土橋大輔・菅原遼・畔柳昭雄：日本全国の貯木場水面の分布状況とその利用実態に関する調査研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.571-572、2019.12
 - ◆新井侑子・菅原遼・畔柳昭雄：隅田川流域における河川利用の変容とその要因に関する研究-第63回理工学部学術講演会梗概集 海洋建築部門、pp.573-574、2019.12
 - ◆芳西優汰・菅原遼・畔柳昭雄：全国のビジター受入漁港の利用実態とその誘致範囲に関する調査研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.575-576、2019.12
 - ◆琵琶湖周辺における水郷集落の立地特性と水利形態の変容に関する調査研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.647-648、2019.12
 - ◆平尾叶・菅原遼・畔柳昭雄：ミズベリングプロジェクトにおける水辺利用の特徴と事業展開の実態に関する調査研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.649-650、2019.12
 - ◆三澤僚・山本瑛博・菅原遼・畔柳昭雄：川崎市臨海部における研究施設の立地分布の変化に関する調査研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.651-652、2019.12
 - ◆船山孝之・菅原遼・畔柳昭雄：日本全国の海水浴場における利用者数の推移に関する研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.653-654、2019.12
 - ◆漆山雄大・菅原遼・畔柳昭雄：キッチンポート事業導入に向けた適地選定に関する調査研究-東京都の都市河川・運河を対象として-、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.655-656、2019.12
 - ◆山本陸人・川口直也・菅原遼・畔柳昭雄：東京都海抜ゼロメートル地域における行政・企業の水害対策に関する調査研究-その1江東5区の水害履歴と各区の水害対策の動向-、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.657-658、2019.12
 - ◆川口直也・山本陸人・菅原遼・畔柳昭雄：東京都海抜ゼロメートル地域における行政・企業の水害対策に関する調査研究-その2行政による民間企業への水害対策と民間企業の分布状況-、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.659-660、2019.12
 - ◆山田優祐・本間拓海・菅原遼・畔柳昭雄：佐渡島における舟小屋に関する調査研究-その1佐渡島沿岸部における舟小屋の残存状況とその建築特性-、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.661-662、2019.12
 - ◆本間拓海・山田優祐・菅原遼・畔柳昭雄：佐渡島における舟小屋に関する調査研究-その1加茂湖湖畔に立地する舟小屋の立地分布と水辺環境整備との関連性-、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.663-664、2019.12
 - ◆高橋大樹・菅原遼・畔柳昭雄：ふるさと納税を活用した地域資源の保全・活用の動向に関する調査研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.665-666、2019.12
 - ◆土橋大輔・菅原遼・畔柳昭雄：全国の港湾周辺に残る貯木場跡地の水面活用方策に関する研究、第16回環境情報科学ポスターセッション、2019.12
 - ◆田中孝登・菅原遼・畔柳昭雄：路線価変動にみる東京都臨海部の水辺開放による地域への影響評価、第16回環境情報科学ポスターセッション、2019.12
 - ◆高橋大樹・菅原遼・畔柳昭雄：国境離島における「ふるさと納税」を活用した地域資源の保全・活用の道央、第16回環境情報科学ポスターセッション、2019.12
 - ◆武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：琵琶湖周辺の水郷集落にみる地域用水機能増進事業の導入効果、第16回環境情報科学ポスターセッション、2019.12
 - ◆山本陸人・菅原遼・畔柳昭雄：海抜ゼロメートル地帯における行政の水害対策に関する調査研究-東京都江東5区の建築物の分布と形態に着目して-、第16回環境情報科学ポスターセッション、2019.12
 - ◆武田竜治・笹川遼・菅原遼・畔柳昭雄：佐渡島の水辺の価値向上のための実践的活動、平成31年度域学連携地域づくり応援事業活動報告会、2020.2
 - ◆山本陸人・菅原遼・畔柳昭雄：海抜ゼロメートル地帯における域内垂直避難のための避難所の整備動向に関する研究-東京都江東5区を対象として-、あらかわ学会年次大会2019ポスターセッション、2020.2
 - ◆野中康太郎・菅原遼・畔柳昭雄：海抜ゼロメートル地帯における緊急避難を想定した建築物の立地分布に関する調査研究-東京都江戸川区の平井地区・小松川地区を対象として-、2019年度日本建築学会関東支部研究報告集、2020.3
 - ◆武田竜治・菅原遼・畔柳昭雄：琵琶湖周辺における水郷集落の集落特性と水利形態の変容過程に関する調査研究、2019年度日本建築学会関東支部研究報告集、2020.3
- 作品等 —————
- ◆畔柳昭雄・菅原遼：一瞬亭-茶事到来-、小松川千本桜まつり、2019.4
 - ◆畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Pergola、江戸川区環境フェア2019、2019.6
 - ◆菅原遼・畔柳昭雄：Bamboo Cocoon、平成31年度域学連携地域づくり応援事業（新潟県佐渡市達者海岸）、2019.7
 - ◆菅原遼・畔柳昭雄：Bamboo Arch、平成31年度域学連携地域づくり応援事業（新潟県佐渡市達者海岸）、2019.7
 - ◆畔柳昭雄・菅原遼：Bamboo Pergola、さわら・リバーフェスタ（道の駅水の郷さわら）、2019.8
 - ◆菅原遼・畔柳昭雄：Bamboo Dome、第5回桜理祭（日本大学理工学部船橋キャンパス）、2019.11
- 受賞等 —————
- ◆畔柳昭雄：平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰「科学技術賞（理解増進分野）：持続可能社会への地域の知恵に学ぶ水環境と減災の理解増進、2019.4.17
- 所属学生の受賞等 —————
- ◆田中孝登：日本沿岸学会研究討論会2019「優秀講演賞」：東京都海上講演の指定管理者による水辺環境の利用管理に関する調査研究、2019.11
 - ◆漆山雄大：第63回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」（ポスター発表）：キッチンポート事業導入に向けた適地選定に関する調査研究-東京都の都市河川・運河を対象として-、2020.1
- 学外活動（講演・講義等） —————
- ◆菅原遼：都市の水辺の賑わい空間からみた公私計画論、法政大学大学院政策創造研究科「都市再生事例研究」大学院授業、2019.6
 - ◆菅原遼：琵琶湖周辺の水郷集落に見る人と水の係わりと公私空間の変容、2019年度日本都市計画学会全国大会ワークショップ、2019.11
 - ◆菅原遼：新川・水辺のまちづくりに向けて-全国に広がる水辺のまちづくりの動向とそのポイント-、八千代商工会議所青年部講演会、2020.2
 - ◆畔柳昭雄：重枝、畔柳両氏に文科相表彰、日本大学広報、2019.5
 - ◆畔柳昭雄：重枝教授と畔柳特任教授 科学技術賞を同時受賞、日本大学新聞2019.5
 - ◆畔柳昭雄：平成31年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞、香川大学 MUSEO ACADEMIAE、2019.6

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆ 畔柳昭雄：再開の海水浴場波高し 観光客、震災前の2割以下、河北新報（朝刊）、2019.6
- ◆ 畔柳昭雄：都市に残された水辺の再生、法政大学大学院政策創造研究科「都市再生事例研究」大学院授業、2019.7
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：地域の竹活用 快適に - 達者海水浴場 日大生、日よけ施設制作 -、新潟日報、2019.7
- ◆ 畔柳昭雄：NEWS ISLAND 学生が達者海水浴場に憩いの空間設置、佐渡テレビ、2019.7
- ◆ 畔柳昭雄：夏だ！海だ！アスレチックだ！目立つ若者の海離れ、朝日新聞（夕刊）2019.7
- ◆ 畔柳昭雄：CCI 会長 畔柳昭雄氏に聞く 基盤整備にはたす役割割って欲しい、日刊建設工業新聞、2019.8
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：佐渡の海辺に日除け、日本大学新聞、2019.8
- ◆ 畔柳昭雄：RSO シンポ 港づくりの新たな視点、港湾タイムス、2019.10
- ◆ 畔柳昭雄：日本の海岸利用の現状、中国・青島市都市計画規制院、2019.10
- ◆ 畔柳昭雄：日本の都市浸水対策、POWERCHAINA、2019.10

学外活動（委員会活動等）

【助教・菅原遼】

- ◆ 日本建築学会・水と緑の公私計画論とマネジメント小委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会・海洋建築ローカルエリアネットワーク小委員会 幹事
- ◆ 日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員
- ◆ 土木学会・景観・デザイン研究編集小委員会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会・海洋工学シンポジウム実行委員会 委員
- ◆ (一社) 水の安全保障戦略機構・水都東京未来会議 委員
- ◆ 一般社団法人水辺荘 理事

【特任教授・畔柳昭雄】

- ◆ 日本海洋工学会 理事
- ◆ 国際海洋建築聯盟 会長
- ◆ 日本水産工学会 評議員/学協会等連絡担当委員
- ◆ 日本沿岸域学会 理事 副会長
- ◆ 日本船舶海洋工学会・日本海洋工学会 海洋工学シンポジウム実行委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・水と緑の公私計画論とマネジメント小委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・海洋建築グローバルネットワーク小委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・顕彰事業委員会 委員

- ◆ 千葉県魅力ある建設事業推進協議会 会長
- ◆ (一社) 水の安全保障戦略機構・水都東京未来会議 議長
- ◆ 青島理工大学 iSMART 客員教授

海外出張・海外調査

- ◆ 畔柳昭雄：青島理工大学泰山学術フォーラム（招待講演）、中国・青島、2019.7.5-8
- ◆ 菅原遼：OMAE2019 における研究発表及び水辺環境整備視察のため、イギリス・グラスゴー、ロンドン、2019.6.9-14
- ◆ 畔柳昭雄：青島理工大学フォーラム（講演）、中国・青島、2019.10.15-18
- ◆ 畔柳昭雄：西安理工大学、学部・大学院特別講義、中国・西安、2019.10.18-10.23
- ◆ 菅原遼：アメリカ・ポートランド市における水辺環境調査のため、アメリカ・ポートランド、2019.10.25-30
- ◆ 畔柳昭雄：韓国海洋大学国際海洋建築会議（基調講演）、韓国・釜山、2019.11.6-11.8
- ◆ 畔柳昭雄：都市環境の視察、ベトナム・ハノイ、2019.11.18-21

研究助成・受託研究

- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：科学研究費・基盤研究（C）、日本学術振興会、持続可能な都市空間のための公私計画・マネジメント論の構築及びデザイン手法
- ◆ 菅原遼：科学研究費・若手研究、日本学術振興会、親水まちづくりの発展に資する親水組織の形成過程とその役割に関する研究
- ◆ 菅原遼・畔柳昭雄：研究奨励寄付金、日本都市計画学会、都市の水辺の公私計画論の構築に向けた実証的研究
- ◆ 畔柳昭雄・菅原遼：受託研究、平成31年度地域学連携地域づくり応援事業、佐渡島の水辺の価値向上のための実践的活動
- ◆ 菅原遼：平成31年度理工学部研究助成金、佐渡島加茂湖における舟小屋の建築特性の解明とその活用モデルの構築・提案
- ◆ 土橋大輔：大林財団奨励研究助成、欧米の水辺利用・管理実態にみる水域の居住環境の構築に関する調査研究
- ◆ 野中康太郎・田中孝登・間宮拓海・山田優祐：平成31年度日大生のやってみたいを実現するプロジェクト、佐渡島の水辺環境改善プロジェクト

山本研究室

審査付論文

- ◆ 永井勇輝・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・友枝萌子・阿久津研介：津波災害時における観光施設等の外国人観光客への避難誘導に関する研究、環境情報科学センター環境情報科学学術研究論文集 33、pp.193-198、2019.11
- ◆ 森拓実・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・友枝萌子：災害種別避難誘導システムのあり方とそのピクトグラムの認知度に関する研究 - 和歌山県東牟婁郡串本町を対象地として -、環境情報科学センター環境情報科学学術研究論文集 33、pp.223-228、2019.11

口頭発表・ポスター発表

- ◆ 友枝萌子・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・永井勇輝：沿岸域の自主防災組織における女性参画の必要性和その在り方に関する研究、土木学会第59回土木計画学研究発表会・春大会講演集 CD-ROM、No.150、2019.6
- ◆ 古迫つぐみ・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・永井勇輝：災害時要援護者名簿の回収率向上に関する研究 - 黒潮町における戸別津波避難カルテを比較対象として -、土木学会第59回土木計画学研究発表会・春大会講演集 CD-ROM、No.151、2019.6
- ◆ 友枝萌子・荒木優佑・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆：防災船着場の利用条件及び利用方法の統一化に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会 2019 講演概要集 CD-ROM、セッション 10-3、2019.7
- ◆ 森拓実・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・鈴木康平：海水浴場における水難事故防止策に関する研究、日本建築学会 2019 年度大会（北陸）学術講演梗概集 DVD（No.10015）、pp.29-30（海洋建築）、2019.9
- ◆ 羽出啓人・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆：漁業集落の復興まちづくりにおける

合意形成に関する研究、日本建築学会 2019 年度大会（北陸）学術講演梗概集 DVD（No.10014）、pp.27-28（海洋建築）、2019.9

- ◆ 永井勇輝・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・友枝萌子・阿久津研介：津波災害時における観光施設等の外国人観光客への避難誘導に関する研究、環境情報科学センター環境情報科学学術研究論文集 33、pp.193-198、2019.11
- ◆ 森拓実・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆・友枝萌子：災害種別避難誘導システムのあり方とそのピクトグラムの認知度に関する研究 - 和歌山県東牟婁郡串本町を対象地として -、環境情報科学センター環境情報科学学術研究論文集 33、pp.223-228、2019.11
- ◆ 鈴木一帆・山本和清・宮崎渉・加藤拓郎：民間事業者参画による漁港の管理体制の変遷に関する研究 - 漁港ストックを活用した指定管理者制度について -、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.561-562、2019.12
- ◆ 加藤拓郎・山本和清・宮崎渉・鈴木一帆：指定管理者制度による新たな漁港管理の可能性に関する研究 - 広島県の漁港を対象として -、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.631-632、2019.12
- ◆ 柿崎龍平・山本和清・宮崎渉：津波被災市町村における観光復興に向けた外国人観光客向けイベントの在り方に関する研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.633-634、2019.12、2019.12
- ◆ 井野僚・山本和清・宮崎渉：外国人漁業就業者及び新規漁業就業者の増加要因に関する研究、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.635-636、2019.12
- ◆ 鈴木晟一郎・山本和清・宮崎渉：舟屋集落における地域活性化方策に関する実態調査 - 京都府伊根町、新潟県佐渡市を対象として -、第63回日本大学理工

教員研究業績 研究室活動業績

学部学術講演会 海洋建築部会、pp.637-638、2019.12

- ◆宮本浩太郎・山本和清・宮崎渉：漁業学校の実態把握とそのあり方に関する調査研究、第 63 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.639-640、2019.12
- ◆田澤七海・山本和清・宮崎渉：外国人観光客を対象とした河川防災船着場周辺における避難意識の実態調査、第 63 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.641-642、2019.12
- ◆中尾友梨香・山本和清・宮崎渉：復興まちづくりにおける防災集団移転促進事業実施後の行政と住民の関係に関する研究、第 63 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.643-644、2019.12
- ◆増田瑞希・山本和清・宮崎渉：海洋性スポーツの普及に寄与する総合型地域スポーツクラブの有効性に関する研究、第 63 回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、pp.645-646、2019.12

所属学生の受賞等

- ◆加藤拓郎：優秀発表賞、指定管理者制度による新たな漁港管理の可能性に関する研究 - 広島県の漁港を対象として -、第 63 回日本大学理工学部学術講演会・海洋建築部会、2020.1

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本福祉のまちづくり学会・身体と空間特別研究委員会 委員
- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆東京湾再生官民連携フォーラム・江戸前ブランドPT メンバー

北嶋研究室

審査付論文

- ◆草川和広・今津祥地郎・北嶋圭二・中西三和：多数回繰返し載荷を受ける RC 造建物のスラブ付十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.41、No.2、pp.307-312、2019.7
- ◆小山大樹・亘健太郎・坂本駿仁・北嶋圭二：RC 造間柱型ダンパーを設置した制震構造建物の制震効果に関する研究、コンクリート工学年次論文集、Vol.41、No.2、pp.889-894、2019.7
- ◆波田雅也・竹内健一・北嶋圭二・中西三和：折返しプレースの構造特性に関する研究 - 軸降伏変位増大と座屈拘束効果の検討 -、日本建築学会構造系論文集、第 85 巻、第 769 号、pp.373-381、2020.3
- ◆難波隆行・北嶋圭二・中西三和：一軸圧縮下の超高強度円形 CFT 短柱の構造特性に関する研究、日本建築学会構造系論文集、第 85 巻、第 769 号、pp.383-393、2020.3

口頭発表・ポスター発表

- ◆川北章悟・朝比奈大輔・北嶋圭二・中西三和：低透水層に形成される水膜が起因となる海底地すべりに関する模型実験、日本地球惑星科学連合 2019 大会、HDS09-P11、2019.5.
- ◆亘健太郎・小山大樹・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その 4 10 階建て新築 RC 造建物による制震設計スタディー）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.231-233、2019.9
- ◆菊地謙太・波田雅也・山本圭太・竹内健一・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しプレースの変形性能に関する研究（その 1 プレース全体の最大塑性率 μ と平均累積塑性変形係数 η ）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.975-976、2019.9
- ◆波田雅也・菊地謙太・山本圭太・村井克綺・北嶋圭二・中西三和・安達洋：折返しプレースの変形性能に関する研究（その 2 芯材に局部座屈が発生する変形レベルの検討）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.977-978、2019.9
- ◆関口聖也・大舛久隆・小松裕・土田亮章・波田雅也・北嶋圭二・中西三和・安達洋：力学的相似則を適用させた滑り基礎構造建物の振動台実験（その 3 二方向振動台実験結果と解析結果の比較）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.127-128、2019.9
- ◆大舛久隆・小松裕・関口聖也・土田亮章・波田雅也・北嶋圭二・中西三和・安達洋：力学的相似則を適用させた滑り基礎構造建物の振動台実験（その 4 基礎板を小割りにした滑り基礎構造の振動台実験の概要）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.129-130、2019.9
- ◆小松裕・大舛久隆・関口聖也・土田亮章・波田雅也・北嶋圭二・中西三和・安達洋：力学的相似則を適用させた滑り基礎構造建物の振動台実験（その 5 基礎板を小割りにした滑り基礎構造の振動台実験の結果）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.131-132、2019.9
- ◆新保拓実・山崎信宏・坂本駿仁・北嶋圭二・久保田雅春・山崎康雄・波田雅也・三塩洋一：レンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その 12 エネルギー評価のための限界性能確認実験）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.763-764、2019.9

- ◆山崎信宏・新保拓実・坂本駿仁・北嶋圭二・川瀬晶子・山崎康雄・村井克綺・石渡康弘：レンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その 13 ダンパーのエネルギー吸収性能の検討）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.765-766、2019.9
- ◆小山大樹・坂本駿仁・亘健太郎・北嶋圭二・小寺直幸・波田雅也・野畑茂雄：RC 造間柱型ダンパーを設置した制震構造建物の制震効果に関する研究（その 1 RC 造間柱型ダンパーの解析スタディー）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.807-808、2019.9
- ◆坂本駿仁・小山大樹・亘健太郎・北嶋圭二・山崎康雄・川瀬晶子・村田鉄雄：RC 造間柱型ダンパーを設置した制震構造建物の制震効果に関する研究（その 2 制震設計スタディー）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.809-810、2019.9
- ◆今津祥地郎・草川和広・北嶋圭二・中西三和・安達洋：RC 造建物のスラブ付き十字形柱梁接合部の多数回繰返し載荷実験（その 1 実験概要）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.127-128、2019.9
- ◆草川和広・今津祥地郎・北嶋圭二・中西三和・安達洋：RC 造建物のスラブ付き十字形柱梁接合部の多数回繰返し載荷実験（その 2 実験結果）、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.129-130、2019.9
- ◆森本竜・北嶋圭二・中西三和・安達洋：固有周期の変化率による建物損傷度の評価方法に関する基礎的研究、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.1061-1062、2019.9
- ◆上田英明・波田雅也・土田亮章・北嶋圭二・中西三和・安達洋：設置後 20 年が経過した外付け制震プレースの「摩擦ダンパー」性能確認試験、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.893-894、2019.9
- ◆萩原悠太・北嶋圭二・中西三和・安達洋：氷海域における固定式海洋構造物の地震応答性状に関する研究、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.7-8、2019.9
- ◆川北章悟・北嶋圭二・朝比奈大輔・中西三和・安達洋：低透水層における水膜現象が起因となる海底地すべりに関する実験的研究、日本建築学会大会（北陸）学術講演梗概集、pp.9-10、2019.9
- ◆亘健太郎・村上航太・山崎康雄・北嶋圭二・中西三和・安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その 3 間柱型ダンパーを用いた RC 造建物の制震構造設計スタディー）、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.42-43、2019.12
- ◆菊地謙太・波田雅也・北澤龍太郎・竹内健一・村井克綺・北嶋圭二・中西三和・安達洋：実大折返しプレースの終局状態に関する研究（その 1 プレース全体の変形性能に関する検討）、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.72-73、2019.12
- ◆波田雅也・菊地謙太・北澤龍太郎・竹内健一・村井克綺・北嶋圭二・中西三和・安達洋：実大折返しプレースの終局状態に関する研究（その 2 芯材に局部座屈が発生する変形レベルの検討）、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.74-75、2019.12
- ◆坂本駿仁・北嶋圭二・中西三和・安達洋：レンズダンパーを取付けた RC 造間柱の構造解析モデルに関する検討、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.44-45、2019.12
- ◆草川和広・今津祥地郎・北嶋圭二・中西三和・安達洋：多数回繰返し載荷を

教員研究業績 研究室活動業績

受ける RC 造スラブ付十字形柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究（その 3 接合部挙動）、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.38-39、2019.12

- ◆森本竜・北嶋圭二・中西三和・安達洋：被災前後の固有周期の変化率と建物損傷の関係に関する基礎的研究（その 3 塑性率に対応させた評価方法）、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.40-41、2019.12
- ◆矢部春恵・北嶋圭二・中西三和・安達洋：ラーメン架構の柱及び免震部材の P-Δ 効果に関する研究、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.48-49、2019.12
- ◆土田亮章・波田雅也・上田英明・北嶋圭二・中西三和・安達洋：設置後 20 年が経過した日大理工 5 号館の「摩擦ダンパー」の性能確認、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、pp.46-47、2019.12
- ◆川北章悟・朝比奈大輔・北嶋圭二・中西三和：地層境界付近に形成される水膜現象が起因となる海底地すべりに関する模型実験、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会、pp.589-590、2018.12
- ◆松浦昂汰・伊藤祐仁・北嶋圭二・中西三和・安達洋：練混ぜ水に海水を使用したコンクリートに関する文献調査、第 63 回日本大学理工学部学術講演会、海洋建築部会、pp.591-592、2018.12

著書・執筆等

- ◆北嶋圭二：制震補強用摩擦ダンパー 一実績約 100 棟（3,600 基）、20 年後の性能確認一、鉄鋼技術、Vol32、No.377、pp.56-57、2019.10
- ◆北嶋圭二：折返しブレース 一層間変形角 1/200rad まで降伏しない耐震ブレース一、鉄鋼技術、Vol32、No.377、pp.58-59、2019.10
- ◆北嶋圭二：大型構造物試験センター、日本大学広報特別版「研究者だより」、第 50 号、2020.2

所属学生の受賞等

- ◆川北省吾：2019 年度日本建築学会大会（北陸）学術講演会 海洋建築委員会「若手優秀発表賞」、低透水層における水膜現象が起因となる海底地すべりに関する実験的研究、日本建築学会、2019.10
- ◆菊地謙大：第 63 回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」（構造・強度部門）、実大折返しブレースの終局状態に関する研究（その 1 ブレース全体の変形性能に関する検討）、日本大学理工学部、2020.1

学外活動（講演・講師等）

【教授 北嶋圭二】

- ◆Outlines of Damage Evaluation, Seismic Capacity Evaluation and Response Control Retrofitting Techniques for R/C Buildings in Japan, Seminar on Earthquake Engineering（地震工学セミナー）、セブ工科大学（セブ、フィリピン）、2019.7
- ◆Seismic Retrofit Method by means of External Damping Braces using Friction Dampers, 2019 Korea-Japan Symposium on Ocean Space Utilization（第 10 回日韓シンポジウム）、韓国海洋大学（釜山、韓国）、2019.8

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・鉄筋コンクリート構造運営委員会（委員）
- ◆日本建築学会・既存中層 RC 建物の耐震性能評価指針作成小委員会（幹事）
- ◆日本建築学会・既存中層 RC 建物の耐震性能評価指針作成小委員会・評価例作成WG（主査）
- ◆日本建築学会・RC 構造将来計画策定WG（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会・技術報告集委員会（海洋建築部門幹事）
- ◆日本建築学会・選挙管理委員会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会・免震制振構造の設計改訂WG（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会・耐震構造の設計改訂WG（委員）
- ◆日本コンクリート工学会・理事
- ◆日本コンクリート工学会・称号授与審査委員会（副委員長）
- ◆日本コンクリート工学会・定款・規則改定委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会・技術委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会・摩擦ダンパーWG（委員）
- ◆日本免震構造協会・パッシブ制振評価小委員会・制振普及WG（委員）
- ◆日本免震構造協会・パッシブ制振評価小委員会・基準対応WG（委員）
- ◆日本免震構造協会・修士論文審査委員会（委員長）
- ◆構造調査コンサルティング協会・構造物評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査・耐震診断・耐震改修等評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査・高層評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・耐震判定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・高層評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会（委員）

海外出張・海外調査

- ◆セブ工科大学「地震工学セミナー」(Seminar on Earthquake Engineering)での基調講演及び学術交流覚書延長締結式、フィリピン・セブ、2019.7.27-30
- ◆「第 10 回海洋建築と沿岸域利用に関するシンポジウム（第 10 回日韓シンポジウム）」(2019 Korea-Japan Symposium on Ocean Space Utilization)での講演及び韓国海洋大教員との意見交換会、韓国海洋大学、韓国・釜山、2019.8.7-9

研究助成・委託研究

- ◆委託研究：青木あすなろ建設株式会社、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆委託研究：飛鳥建設株式会社ほか 5 社、凹面形状を有する板状鋼材ダンパーの性能評価に関する技術指導及び研究
- ◆研究奨励寄付金：西松建設株式会社、強震観測に基づく建物の振動特性評価と健全性判定支援システムの開発
- ◆研究奨励寄付金：株式会社長谷工コーポレーション、杭頭免震構法の既製杭適用に関する研究
- ◆研究奨励寄付金：株式会社コザキエンジニアーズ、軽量鉄骨溶接接合部の構造性能に関する実験的研究

教員研究業績 研究室活動業績

近藤研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆植田翔・近藤典夫：くい違い配置 2 円柱の流力振動特性に関する 3 次元数値解析、第 32 回計算力学講演会、2019.9
- ◆櫻井郁斗・近藤典夫：大型円筒貯槽タンクにおける非線形スロッシングの数値解析、第 32 回計算力学講演会、2019.9
- ◆山田涼介・近藤典夫：高レイノルズ数における 2 次元円柱の流れ方向と流れ直交方向の振動解析、第 32 回計算力学講演会、2019.9
- ◆遠藤優太・近藤典夫：加振外力の変化による円筒形タンク内のスロッシング解析、第 32 回計算力学講演会、2019.9
- ◆櫻井郁斗・近藤典夫：地震動を受けた円筒タンクの液面動揺に関するナビエ・ストークス方程式の数値解について、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、2019.9
- ◆山田涼介・近藤典夫：臨界レイノルズ数における 2 次元円柱の渦励振解析、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、2019.9
- ◆横山侑弥・近藤典夫：入射角を有する角柱のギャロッピング振動に関する 3 次元数値計算、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、2019.9
- ◆遠藤優太・近藤典夫：加振外力の変化による円筒タンク内のスロッシング現象の相異について、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集、2019.9

著書・執筆等

- ◆近藤典夫 他：建築構造における連成・接触問題の考え方と扱い方 2.3.1 風作用時の建築物と空気の連成解析、日本建築学会、2019

受賞等

- ◆近藤典夫：日本建築学会賞（論文）、流体—構造連成問題への有限要素解析に関する一連の研究、2019.5

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 理事
- ◆日本建築学会 関東支部 支部長
- ◆日本建築学会 シェル・空間構造運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 応用力学運営委員会 委員
- ◆日本建築学会 空間構造における連成・接触問題小委員会 幹事
- ◆日本計算工学会 代表委員

福井研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆内田龍一郎・矢田光輝・福井剛・浜原 正行：地震時および地震終了後の PC 骨組の力学的挙動に関する解析的研究（その 1 解析概要）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.765-766、2019.9
- ◆刈部航佑・矢田光輝・内田龍一郎・福井剛・浜原 正行：地震時および地震終了後の PC 骨組の力学的挙動に関する解析的研究（その 2 最大層せん断力と等価粘性減衰定数に対する検討）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.766-767、2019.9
- ◆矢田光輝・内田龍一郎・福井剛・浜原 正行：地震時および地震終了後の PC 骨組の力学的挙動に関する解析的研究（その 3 残留変形時の曲げモーメントに対する検討）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.768-769、2019.9
- ◆岡田和俊・朝倉弘貴・陳治・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受ける RC 骨組の地震後の性状に関する実験的研究（その 1 実験概要）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.771-772、2019.9
- ◆陳治・朝倉弘貴・岡田和俊・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受ける RC 骨組の地震後の性状に関する実験的研究（その 2 実験概要）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.773-774、2019.9
- ◆朝倉弘貴・岡田和俊・陳治・福井剛・浜原正行：鉛直荷重を受ける RC 骨組の地震後の性状に関する実験的研究（その 3 実験値と解析値の比較）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.775-776、2019.9
- ◆石井誠士・金庭史弥・内田順子・福井剛・浜原正行：PC 部材のせん断耐力に関する研究（その 1 最大荷重に及ぼす諸要因の影響とトラス機構）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.783-784、2019.9
- ◆齊田健志・金庭史弥・石井誠士・福井剛・浜原正行：PC 部材のせん断耐力に関する研究（その 2 せん断耐力式の誘導）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.785-786、2019.9
- ◆金庭史弥・石井誠士・内田順子・福井剛・浜原正行：PC 部材のせん断耐力に関する研究（その 3 計算精度の検証）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.787-788、2019.9
- ◆榎本憲嗣・岡崎佑紀・小池正大・福井剛・浜原正行：アンボンド PCaPC 部材の曲げとせん断の伝達機構、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.815-816、2019.9
- ◆森田明・佐藤直人・岩見遠平・福井剛・染谷俊章：プレストレスを導入した

集成材梁の実大実験（その 1 実験概要）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.841-842、2019.9

- ◆佐藤直人・森田明・岩見遠平・福井剛・染谷俊章：プレストレスを導入した集成材梁の実大実験（その 2 曲げ実験結果）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.843-844、2019.9
- ◆岡崎祐樹・森田明・佐藤直人・岩見遠平・染谷俊章・福井剛：プレストレスを導入した集成材梁の実大実験（その 3 長期載荷試験）、日本建築学会大会（北陸）学術講演会梗概集 pp.845-846、2019.9

学外活動（講演・講義等）

- ◆福井剛・柴前田秀樹・森田明・清水隆・鐺沢曜：日本建築学会関東支部既刊図書講習会「プレストレストコンクリート構造の設計」2019.9

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート規程指針小委員会 委員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会 主査
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工 WG 委員
- ◆日本建築学会 関東支部 プレストレストコンクリート建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会 関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会 幹事
- ◆日本建築学会 関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC 構造の設計改定 WG 主査
- ◆プレストレスト工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会 委員
- ◆プレストレスト工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会 委員
- ◆プレストレスト工学会・会誌編集委員会 論文審査小委員会 委員
- ◆日本 ERI・建築基準法に基づく構造性能評価委員会 委員
- ◆建築研究振興協会「建築における緊張管理の手引き」検討評価委員会 委員長

研究助成・受託研究

- ◆研究奨励寄付金、オリエンタル白石株式会社、鉛直荷重を受ける PC 骨組の損傷評価
- ◆受託研究、株式会社建研、プレストレスト木質構造の PC グラウト充填性確認試験

居駒・相田研究室

審査付論文

- ◆ Yasuhiro Aida · Koichi Masuda · Tomoki Ikoma · Hiroaki Eto: Introduction of Virtual Structural Boundary for Collision Force Analysis of Tsunami Drifting Objects in Particle Method, Proceedings of the ASME 2019 38th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2019, June 9-14, 2019, Glasgow, Scotland, OMAE2019-95408, 2019.6
 - ◆ Koichi Masuda · Tomoki Ikoma · Yasuhiro Aida · Masayuki Takada · Yuta Fukunaga : A Research on Predicting Method of the Damage by Tsunami Drifting Objects in Urban Port, Proceedings of the ASME 2019 38th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2019, June 9-14, 2019, Glasgow, Scotland, OMAE2019-95927, 2019.6.
 - ◆ Mitsuru Nakamura · Tomoki Ikoma · Hiroaki Eto · Yasuhiro Aida · Koichi Masuda : Response Characteristics of a Floating Structure With Moon Pools Installed With Vertical Axis Wind Turbines, Proceedings of the ASME 2019 38th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2019, June 9-14, 2019, Glasgow, Scotland, OMAE2019- 96045, 2019.6
 - ◆ Tomoki Ikoma · Yoshiyuki Kihara · Shota Hirai · Yasuhiro Aida · Koichi Masuda · Hiroaki Eto : A Basic Study on Influence of Airchamber Volume on OWC Models to Power Conversion Performance Proceedings of the ASME 2019 38th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering, OMAE2019, June 9-14, 2019, Glasgow, Scotland, OMAE2019- 95925, 2019.6
 - ◆ Tomoki Ikoma · Mitsuru Nakamura · Satsuya Moritsu · Yasuhiro Aida · Koichi Masuda · Hiroaki Eto : Effects of Four Moon Pools on a Floating System Installed With Twin-VAWTs, Proceedings of ASME, IOWTC2019, ASME 2019 2nd International Offshore Wind Technical Conference, V001T01A016, November 3-6, IOWTC2019-7598, 2019.11
- 口頭発表・ポスター発表 —————
- ◆ 居駒知樹: 定置網や養殖海域等における小規模波力発電浮体システムの係留方法と発電性能の最適化および電力利用に関する基礎研究、一般財団法人漁漁漁場漁村総合研究所完了報告、2019.5
 - ◆ 木原禎之・居駒知樹・平井翔太・惠藤浩朗・増田光一・相田康洋: 振動水柱型波力発電装置の空気室特性に与える縮尺影響に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、2019.6
 - ◆ 中村允・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋・増田光一: 縦軸風車を搭載したムーンプールを有する浮体の波浪中動揺に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、2019.6
 - ◆ 小川拓麻・居駒知樹・相田康洋・増田光一・佐野敦紀: 洋上風力発電基礎杭の設置作業中のクレーン船の波浪中動揺に関する基礎的研究、日本沿岸学会研究討議会 2019 講演概要集 No.32、2019.7
 - ◆ S.Furuya · T.Ikoma · H.Eto, Y.Aida · K.Masuda : Behaviours of OWC Devices Installed on a Large Floating Structure and PTO Performance, Pacon2019 26th International Conference, Marine Science and Technology for Sustainable Development, July 16-19, 2019, Vladivostok, Russia, 2019.7
 - ◆ S.Hirai · T.Ikoma · H.Eto · Y.Aida and K.Masuda : Effects of the Scale and Airchamber Volume of OWC Type WECs on air pressure and Flow Rate , Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, July 16-19, 2019, Vladivostok, Russia, 2019.7
 - ◆ S.Moritsu · M.Nakamura · T.Ikoma · H.Eto · Y.Aida and K.Masuda : Effects of Moon pools on Motion Responses of Barge-Based Floating Structures , Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, July 16-19, 2019, Vladivostok, Russia, 2019.7
 - ◆ K. Sugo · T.Ikoma · H.Eto · Y.Aida and K.Masuda : Effects of Projecting-Wall Thickness on Primary Conversion Performance of PW-OWC Type WECs, Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, July 16-19, 2019, Vladivostok, Russia, 2019.7
 - ◆ A.Sano · M.Yamada · T.Ikoma · H.Eto · Y.Aida and K.Masuda : An Experimental Study on Motion Behaviours of a Crane Ship and a Suspended Pile in Installing an Offshore Wind Turbine System, Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, July 16-19, 2019, Vladivostok, Russia, 2019.7
 - ◆ Y. Fukunaga · T.Ikoma · H.Eto · Y.Aida and K.Masuda : A Fundamental Study on Development of Port Tsunami Hazard Map for Business Continuity After Tsunami Disaster Occurrence, Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, July 16-19, 2019, Vladivostok, Russia, 2019.7
 - ◆ K. Omura · T. Ikoma · Y. Aida · K. Masuda and H. Eto: Effects of Arrangement of Mooring Tethers on Response Characteristics of a Floating Structure in Deep Sea with Steep Bathymetry, Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, July 16-19, 2019, Vladivostok, Russia, 2019.7
 - ◆ Yasuhiro Aida · Tomoki Ikoma · Daichi Murata · Hiroaki Eto: A Fundamental Study on Elastic Response Analysis at a Tsunami Drifting Object Collide with a Structure Applying Elastic Model of MPS Method, Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, July 16-19, 2019, Vladivostok, Russia, 2019.7
 - ◆ 居駒知樹・相田康洋・増田光一・惠藤浩朗: 急峻な大水深海域に係留される浮体運動と索張力の応答特性について、日本建築学会学術講演梗概集 (北陸)、pp.1-2、10001、2019.9
 - ◆ 守津颯哉・居駒知樹・相田康洋・増田光一・惠藤浩朗: ムーンプールを有するボンツーン型浮体の形状変化による動揺特性の違いについて、日本建築学会学術講演梗概集 (北陸)、pp.13-14、10007、2019.9
 - ◆ 相田康洋・村田大地・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗: 粒子法の弾性体モデルを適用した構造物の津波漂流物衝突時の応答解析に関する基礎的研究、日本建築学会学術講演梗概集 (北陸)、pp.55-56、10028、2019.9
 - ◆ 増田光一・細谷昂・相田康洋・居駒知樹・惠藤浩朗・福永勇太: 沿岸都市のBCMSに対応する港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究 (その1 清水港における係留船舶の津波中応答シミュレーションを基にした船舶の漂流被害の検討)、日本建築学会学術講演梗概集 (北陸)、pp.57-58、10029、2019.9
 - ◆ 細谷昂・増田光一・相田康洋・居駒知樹・惠藤浩朗・福永勇太: 沿岸都市のBCMSに対応する港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究 (その2 清水港の各埠頭におけるコンテナ漂流とそれによる被害の検討)、日本建築学会学術講演梗概集 (北陸)、pp.59-60、10030、2019.9
 - ◆ 福永勇太・相田康洋・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗: 最短経路避難解析を用いた藤子沿岸部の避難困難地域と被害軽減対策に関する基礎的研究、日本建築学会学術講演梗概集 (北陸)、pp.61-62、10031、2019.9
 - ◆ 守津颯哉・居駒知樹・相田康洋・増田光一: ムーンプールを設けたボンツーン浮体の形状変化に対する動揺特性の違いに関する研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集 第25号、2019A-GS3-2、pp.175-178、2019.11
 - ◆ 福永勇太・居駒知樹・相田康洋・増田光一: 陽的アルゴリズムを導入したMPS法による津波波形の再現に関する基礎的研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.593-594、2019.12
 - ◆ 平井翔太・居駒知樹・増田光一・相田康洋: 振動水柱型を有する空気室の容積の縮尺影響に関する基礎的研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.595-596、2019.12
 - ◆ 巢河香里・居駒知樹・増田光一・相田康洋: 水深と壁厚さがPW-OWC型波力発電装置の一次変換性能に及ぼす影響に関する研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.597-598、2019.12
 - ◆ 鈴木雅洋・居駒知樹・増田光一・相田康洋・林昌奎: 一樣流中において回転する円柱構造物の端部影響に関する実験的研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.667-668、2019.12
 - ◆ 守津颯哉・居駒知樹・増田光一・相田康洋: ボンツーン型浮体の動揺特性に与えるムーンプールの影響に関する研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.669-670、2019.12
 - ◆ 古矢祥一朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一: OWC型波力発電装置を搭載した大型浮体の一次変換特性に関する基礎的研究、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.671-672、2019.12
 - ◆ 佐野敦紀・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋・増田光一・山田瑞熙: 洋上風車基礎杭設置作業中における起重機船と基礎杭の波浪中動揺解析、日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.673-674、2019.12
- 著書・執筆等 —————
- ◆ 増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋: 海洋建築シリーズ 水波工学の基礎 改訂増補版、成山堂書店、2019.10.

教員研究業績 研究室活動業績

受賞等

- ◆ Koichi Masuda · OMAE Conference Appreciation Award, ASME Ocean, Offshore and Arctic Engineering Division, 2019.6

所属学生の受賞等

- ◆ 平井翔太：日本大学理工学部学術講演会優秀発表賞、振動水柱型を有する空気室の容積の縮尺影響に関する基礎的研究、日本大学理工学部、2019.12
- ◆ 鈴木雅洋：日本大学理工学部学術講演会優秀発表賞、一様流中において回転する円柱構造物の端部影響に関する実験的研究、日本大学理工学部、2019.12

学外活動（講演・講義等）

- ◆ 居駒知樹：海のことをみんなでもっと知ろう、第 60 回海洋教育フォーラム（千葉）、日本船舶海洋工学会、2019.11
- ◆ 居駒知樹：定置網や養殖海域等における小規模波力発電浮体システムの係留方法と発電性能の最適化および電力利用に関する基礎的研究、第 13 回調査研究成果発表会、一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所、2019.12
- ◆ 居駒知樹：海洋再生可能エネルギー関連技術と浮体技術（波、流れ、洋上風）、千葉エリア日本大学新技術説明会、日本大学 NUBIC、2020.2

学外活動（委員会活動等）

<教授・居駒知樹>

- ◆ 東京大学大学院新領域創成科学研究科海洋技術環境専攻 非常勤講師
- ◆ 東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
- ◆ 一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 理事（学術担当）
- ◆ 日本海洋工学会 理事、運営委員（日本沿岸域学会担当）
- ◆ 日本建築学会 代議員
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会 本委員会委員
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築ローカルエリアネットワーク小委員会 主査
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築エンジニアリング小委員会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・海洋工学・海洋環境研究企画部会 幹事
- ◆ 日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会 幹事
- ◆ 日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・波力発電における水槽試験での模型縮尺影響プロジェクト研究委員会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・海底・海底下資源開発ストラテジー研究委員会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会・海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆ 日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員長
- ◆ 日本沿岸域学会・2020 年アピール研究委員会委員長
- ◆ 土木学会 会員
- ◆ 海洋工学懇談会 幹事
- ◆ 日本海洋工学会・日本船舶海洋工学会・第 28 回海洋工学シンポジウム 実行委員
- ◆ PACON International, Board member (理事)
- ◆ OMAE 2019 & OMAE 2020 Symposium Organizer of Ocean Space Utilization ASME member
- ◆ Techno-Ocean 2020 Technical Program Committee member
- ◆ Techno-Ocean 2020 Panel Session 4, coordinator
- ◆ RENEW 2020 International Conference, Scientific Committee member

- ◆ Renewable Energy 2020 分科会 8（海洋エネルギー）Co-Readers
- ◆ IEC TC114 Part 103 - Guidelines for WEC testing, 国際委員
- ◆ 国土交通省・港湾局・港湾等に来襲する想定を超えた高潮・高波・暴風対策検討委員会 委員
- ◆ 同委員会、ハード施策検討ワーキンググループ 委員
- ◆ 同委員会、ソフト施策検討ワーキンググループ 委員
- ◆ 三菱総合研究所・NEDO「海洋エネルギー発電に関する情報収集」外部協力員
- ◆ 日本 ERI 構造評定委員

<助教・相田康洋>

- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築津波等防災小委員会 委員
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会・ローカルエリアネットワーク小委員会 委員
- ◆ 第 28 回海洋工学シンポジウム（日本建築学会）実行委員

<特任教授・増田光一>

- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会 本委員会委員
- ◆ 日本建築学会・海洋建築委員会 海洋建築津波等防災小委員会 委員
- ◆ 日本海洋工学会 理事、運営委員
- ◆ 日本船舶海洋工学会 海洋環境研究会 幹事
- ◆ 日本船舶海洋工学会 海洋工学研究会 会員
- ◆ 東京大学生産技術研究所 平塚波力発電検討会 委員長
- ◆ 一般社団法人国際海洋科学技術協会 理事
- ◆ 一般社団法人海流エネルギー活用推進機構 理事長
- ◆ 一般社団法人海洋利用技術研究所 代表理事
- ◆ PACON International, Board member (理事)
- ◆ OMAE2019 Topics 'Organizer (High Tide and Tsunami)
- ◆ テクノオーシャンネットワーク 理事

海外出張・海外調査

- ◆ 居駒知樹：国際会議 OMAE2019(OOAE, ASME 主催)での研究発表と OSU オルガナイザーとして、イギリス・スコットランド・グラスゴー、2019.6.8-16
- ◆ 居駒知樹：国際会議 PACON2019 (PACON 主催)での研究発表と司会および理事として、ロシア・ウラジオストク、2019.7.15-18
- ◆ 居駒知樹：海洋建築に関する韓日シンポジウムでの発表と韓国海洋大学校との交流のため、韓国・釜山、2019.8.7-9
- ◆ 居駒知樹：国際会議 IOWTC2019 (OOAE, ASME 主催)での研究発表、マルタ共和国・セントジュリアン、2019.11.2-8
- ◆ 相田康洋：国際会議 OMAE2019 (OOAE, ASME 主催)での研究発表、イギリス・スコットランド、2019.6.9-14
- ◆ 相田康洋：国際会議 26th PACON での研究発表、ロシア・ウラジオストク、2019.7.16-19

研究助成・受託研究

- ◆ 居駒知樹：科学研究費補助金（JSPS）・基盤研究（B）、振動水柱型波力発電装置の空気室容積や形状の違いによる非線形影響と縮尺影響の究明（2年度目）
- ◆ 居駒知樹：科学技術振興機構（JST）、A-STEP、コストを大幅に軽減する Multi-connection 型縦軸浮体式風車の研究開発（研究分担者）
- ◆ 居駒知樹：理工学部プロジェクト研究費、大型垂直軸風車を搭載した浮体式風力発電システムのタービン性能と耐波浪性能からみた実現可能性の研究

惠藤研究室

審査付論文

- ◆ Hiroaki Eto · Sachio Togawa · Morikazu Yamamoto · Shintaro Miyasawa · Junko Yamaguchi · Tomoki Ikoma · Yasuhiro Aida · Koichi Masuda · Sena Shimomoto and Yuichi Kitabatake : On GIS Based Facility Scale and Selection of Suitable Site of Floating Medical Support System on Big Disaster, Proceedings of OMAE2019 OMAE2019-96493, 2019.6
- ◆ Hiroaki Eto · Koji Iizuka · Ryo Nishigochi · Tomoki Ikoma · Yasuhiro Aida and Koichi Masuda : Fundamental Study on Structural Strength of Large-Scale Floating Coal Transshipment Station, Proceedings of OMAE2019 OMAE2019-96482, 2019.6

- ◆ Yasuhiro Aida · Koichi Masuda · Tomoki Ikoma and Hiroaki Eto : Introduction of Virtual Structural Boundary for Collision Force Analysis of Tsunami Drifting Objects in particle Method, Proceedings of OMAE2019 OMAE2019-95408, 2019.6
- ◆ Mitsuru Nakamura · Tomoki Ikoma · Hiroaki Eto · Yasuhiro Aida and Koichi Masuda : Response Characteristics of a Floating Structure with Moon Pools Installed with Vertical-axis Wind Turbines, Proceedings of OMAE2019 OMAE2019-96045, 2019.06
- ◆ Tomoki Ikoma · Yoshiyuki Kihara · Shota Hirai · Yasuhiro Aida · Koichi Masuda and Hiroaki Eto : A Basic Study on Influence of Airchamber Volume on OWC Models to Power Conversion Performance,

Proceedings of OMAE2019 OMAE2019-95925, 2019.6

- ◆ 惠藤浩朗・下本瀬夏・北島佑一・登川幸生・山本守和・宮沢信太郎・山口順子・居駒智樹・相田康洋・増田光一：GISによる災害時医療支援浮体の適地選定および規模に関する基礎的研究、沿岸域学会誌 Vol.32 No.1, 2019.6
- ◆ 惠藤浩朗・関口諒・敷田曜・木原寛明・居駒知樹・相田康洋・増田光一：大型船舶が接舷された大型石炭貯蔵浮体システムの運動応答特性に関する研究、土木学会論文集 B3 (海洋開発) 75(2) p.397-402, 2019.7
- ◆ Tomoki Ikoma・Mitsuru Nakamura・Satsuya Moritsu・Yasuhiro Aida・Koichi Masuda・Hiroaki Eto：Effects of Four Moon Pools on a Floating System Installed With Twin-VAWTs, Proceedings of ASME, IOWTC2019, ASME 2019 2nd International Offshore Wind Technical Conference, V001T01A016, November 3-6, IOWTC2019-7598, 2019.11

——— 口頭発表・ポスター発表 ———

- ◆ 木原禎之・居駒知樹・平井翔太・惠藤浩朗・増田光一・相田康洋：振動水柱型波力発電装置の空気室特性に与える縮尺影響に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、2019.6
- ◆ 中村允・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋・増田光一：縦軸風車を搭載したムーンプールを有する浮体の波浪中動揺に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、2019.
- ◆ Shoichiro Furuya・Tomoki Ikoma・Hiroaki Eto・Yasuhiro Aida・Koichi Masuda：Behaviours of OWC Devices Installed on a Large Floating Structure and PTO Performance, PACON 2019, 2019.7
- ◆ Satsuya Moritsu・Mitsuru Nakamura・Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Yasuhiro Aida・Hiroaki Eto：Effects of Moon pools on Motion Responses of Barge-Based Floating Structures, PACON 2019, 2019.7
- ◆ Shota Hirai・Tomoki Ikoma・Hiroaki Eto・Yasuhiro Aida・Koichi Masuda：Effects of the Scale and Airchamber Volume of OWC Type WECs on Air pressure and Flow Rate, PACON 2019, 2019.7
- ◆ Atsuki Sano・Mizuki Yamada・Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Yasuhiro Aida・Hiroaki Eto：An Experimental Study on Motion Behaviours of a Crane Ship and a Suspended Pile in Installing an Offshore Wind Turbine System, PACON 2019, 2019.7
- ◆ Kaori Sugo・Tomoki Ikoma・Hiroaki Eto・Yasuhiro Aida・Koichi Masuda：Effects of Projecting-Wall Thickness on Primary Conversion Performance of PW-OWC Type WECs, PACON 2019, 2019.7
- ◆ Yuta Fukunaga・Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Yasuhiro Aida・Hiroaki Eto・Takahiro Maeda：A Fundamental Study on Development of Port Tsunami Hazard Map for Business Continuity After Tsunami Disaster Occurrence, PACON 2019, 2019.7
- ◆ Hiroaki Kihara・Tomoki Ikoma・Koichi Masuda・Yasuhiro Aida・Hiroaki Eto・Nanae Miyashita：Fundamental Study on the Characteristics of the Movement of Ships and the Characteristics of Mooring cable tension in non-berth mooring, PACON 2019, 2019.7
- ◆ Kanade Omura・Tomoki Ikoma・Yasuhiro Aida・Koichi Masuda and Hiroaki Eto：Effects of Arrangement of Mooring Tethers on Response Characteristics of a Floating Structure in Deep Sea with Steep Bathymetry, Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, PACON 2019, 2019.7
- ◆ Yasuhiro Aida・Tomoki Ikoma・Daichi Murata・Hiroaki. Eto：A Fundamental Study on Elastic Response Analysis at a Tsunami Drifting Object Collide with a Structure Applying Elastic Model of MPS Method, Pacon2019 26th International Conference Marine Science and Technology for Sustainable Development, PACON 2019, 2019.7
- ◆ 山口兼右・大塚文和・惠藤浩朗：東京湾内湾沖合部での着底初期稚魚の成長・生残について、日本沿岸域学会研究討論会、2019.7
- ◆ 下本瀬夏・惠藤浩朗・北島佑一・登川幸生・山本守和・宮沢信太郎・山口順子・居駒智樹・相田康洋・増田光一：GISによる災害時医療支援浮体の適地選定および規模に関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2019.7
- ◆ Hiroaki Eto：A Study on Motion Response of Large-Scale Floating Coal Transshipment Station with a Large Bulker, 2019 Japan-Korea Symposium on Ocean Space Utilization, 2019.8
- ◆ 居駒知樹・相田康洋・増田光一・惠藤浩朗：急峻な大水深海域に係留される浮体運動と索張力の応答特性について、日本建築学会大会(北陸)学術講演

会梗概集 pp.1-2, 2019.9

- ◆ 木原寛明・惠藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一：離島港湾における非接岸係留された係留船舶の応答特性と係留索張力に関する一考察、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.3-4, 2019.9
- ◆ 海保純大・惠藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一：深海を活用した水素生産・貯蔵施設の電解水冷却システムに関する基礎的研究、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.5-6, 2019.9
- ◆ 守津颯哉・居駒知樹・相田康洋・増田光一・惠藤浩朗：ムーンプールを有するポンツーン型浮体の形状変化による動揺特性の違いについて、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.13-14, 2019.9
- ◆ 飯塚功二・西河内亮・惠藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一：大型石炭貯蔵浮体の局部材の構造特性に関する基礎的研究 その1 局部材の応力特性、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.15-16, 2019.9
- ◆ 西河内亮・飯塚功二・惠藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一：大型石炭貯蔵浮体の局部材の構造特性に関する基礎的研究 その2 塑性歪みによる座屈崩壊、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.17-18, 2019.9
- ◆ 関口諒・敷田曜・惠藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一：大型船舶が接舷された大型石炭貯蔵浮体システムの応答量に関する研究 その1 大型石炭貯蔵浮体システムの運動応答、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.19-20, 2019.9
- ◆ 敷田曜・関口諒・惠藤浩朗・居駒知樹・相田康洋・増田光一：大型船舶が接舷された大型石炭貯蔵浮体システムの応答量に関する研究 その2 荷役稼働率に基づく応答量の評価、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.21-22, 2019.9
- ◆ 相田康洋・村田大地・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗：粒子法の弾性体モデルを適用した構造物の津波漂流物衝突時の応答解析に関する基礎的研究、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.55-56, 2019.9
- ◆ 増田光一・細谷昂・相田康洋・居駒知樹・惠藤浩朗・福永勇太：沿岸都市のBCMSに対応する港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究(その1 清水港における係留船舶の津波中応答シミュレーションを基にした船舶の漂流被害の検討)、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.57-58, 2019.9
- ◆ 細谷昂・増田光一・相田康洋・居駒知樹・惠藤浩朗・福永勇太：沿岸都市のBCMSに対応する港湾津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究(その2 清水港の各埠頭におけるコンテナ漂流とそれによる被害の検討)、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.59-60, 2019.9
- ◆ 福永勇太・相田康洋・居駒知樹・増田光一・惠藤浩朗：最短経路避難解析を用いた藤沢市沿岸部の避難困難地域と被害軽減対策に関する基礎的研究、日本建築学会大会(北陸)学術講演会梗概集 pp.61-62, 2019.9

——— 著書・執筆等 ———

- ◆ 増田光一・居駒知樹・惠藤浩朗・相田康洋：海洋建築シリーズ 水波工学の基礎 改訂増補版、成山堂書店、2019.10
- ◆ 日本建築学会編：海洋建築の計画・設計事例、丸善出版株式会社、5章担当、2020.3

——— 所属学生の受賞等 ———

- ◆ 山口兼右：日本沿岸域学会研究討論会優秀講演表彰、東京湾内湾沖合部での着底初期稚魚の成長・生残について、日本沿岸域学会、2019.11

——— 学外活動(講演・講義等) ———

- ◆ 惠藤浩朗：首都直下地震における医療支援浮体の有用性に関する基礎的研究、国際津波防災学会活動報告 2020、2020.3

——— 学外活動(委員会活動等) ———

- ◆ 東京大学生産技術研究所 研究員
- ◆ 日本建築学会 海洋建築本委員会 委員
- ◆ 日本建築学会 海洋建築委員会 海洋建築エンジニアリング小委員会 幹事
- ◆ 日本建築学会 海洋建築委員会 海洋建築企画小委員会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学学会 海洋工学研究会 構造部会 委員
- ◆ 日本船舶海洋工学学会 東支部編集委員会 委員
- ◆ 日本沿岸域学会 論文集編集委員会 委員

——— 海外出張・海外調査 ———

- ◆ OMAE2019 講演、イギリス・グラスゴー、2019.6.8-15
- ◆ 日韓シンポジウム講演、釜山・韓国、2019.8.7-8

教員研究業績
研究室活動業績

小林(昭)・野志研究室

審査付論文

- ◆横田拓也・小林昭男・宇多高明・野志保仁：海岸砂丘を横断する小道の幅・向きとblowout形成の関係、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L635-L640、2019.7
- ◆西村亜子・小林昭男・宇多高明・野志保仁：砂浜下の岩盤による遡上波の浸透抑制に伴う冲向漂砂の助長、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L331-L336、2019.7
- ◆宇多高明・小林昭男・横田拓也・九十九里海岸堀川浜の12号ヘッドランド下手側での侵食と津波対策、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L647-L652、2019.7
- ◆野志保仁・宇多高明・伊達文美・目野玄也・小林昭男：沿岸漂砂の供給が断たれた富津岬先端部の侵食の実態、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L605-L610、2019.7
- ◆宇多高明・渡部末樹久・小西史恵・田代真士・足利由紀子・小林昭男：中津干潟に面した三百間砂州の地形変化の観測、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L605-L610、2019.7
- ◆宇多高明・渡部末樹久・小西史恵・田代真士・足利由紀子・小林昭男：中津干潟に面した三百間砂州の地形変化の観測、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L719-L724、2019.7
- ◆村田昌樹・宇多高明・野志保仁・小林昭男・芹沢真澄・宮原志帆：上飯島の長目の浜barrierへ隣が運ばれる機構、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L617-L622、2019.7
- ◆宇多高明・伊達文美・野志保仁・小林昭男・Le Thi Kim Thoa：Vietnam南部Phan Thietで進む沿岸漂砂の場所的不均衡による侵食、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L587-L592、2019.7
- ◆山本貴也・野志保仁・宇多高明・小林昭男・橋本桂樹：館山湾に面した見物海岸の護岸倒壊と背後地の吸出しの現地調査、土木学会論文集B3(海洋開発)75巻2号、L426-L431、2019.7
- ◆Akio Kobayashi・Takaaki Uda・Ryuhei Miyata・Yasuhito Noshi：Disappearance of Sandy Beach on Ba Lang Beach in Nha Trang and its Recovery by Beach Nourishment, 10th ASIAN AND PACIFIC COASTS 2019, Springer, 303-310, 2019.9
- ◆Ryuhei Miyata・Takaaki Uda・Akio Kobayashi・Yasuhito Noshi：Improvement of Waterfront Function of Gently Sloping Revetment by Gravel Nourishment and Groins, 10th ASIAN AND PACIFIC COASTS 2019, Springer, 295-301, 2019.9
- ◆Kohei Iwase・Takaaki Uda・Akio Kobayashi・Masumi Serizawa・Yasuhito Noshi：Verification of Performance of Model for Predicting Formation of River-Mouth Terrace in Dynamic Equilibrium, 10th ASIAN AND PACIFIC COASTS 2019, Springer, 287-294, 2019.9
- ◆横田拓也・小林昭男・宇多高明・芹沢真澄・野志保仁・勝木厚成：波による漂砂と飛砂を同時に考慮した地形変化予測モデル、土木学会論文集B2(海岸工学)75巻2号L469-L474、2019.10
- ◆宮田隆平・小林昭男・宇多高明・野志保仁：粒径を考慮したBGモデルにおける最適漂砂量係数の選定、土木学会論文集B2(海岸工学)75巻2号

L481-L486、2019.10

- ◆西村和真・小林昭男・宇多高明・野志保仁：相反する2方向からの波の作用下での陸繋砂州の発達予測、土木学会論文集B2(海岸工学)75巻2号、L505-L510、2019.10

口頭発表・ポスター発表

- ◆星上幸良・小林昭男：千葉県勝浦市興津地区の津波避難リスクに関する調査、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.581-582、2019.12
- ◆梅田天斗・小林昭男・宇多高明・野志保仁：波向変動波浪場における護岸端部での侵食機構の解明、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.583-584、2019.12
- ◆目野玄也・小林昭男・宇多高明・野志保仁：ディーブローニングを用いた海浜変形診断、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.585-586、2019.12
- ◆関根雅人・小林昭男・宇多高明・野志保仁：九十九里海岸堀川浜の12号ヘッドランド下手側での砂丘による津波対策効果の検討、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp.587-588、2019.12

学外活動(講演・講義等)

- ◆小林昭男：Beach Erosion and Effective Measures、海岸・地震工学セミナー(セブ工科大学主催)、2019.7
- ◆小林昭男：Erosion of Sand Dune Used as Measure Against Tsunamis、The 5th International Conference on ECSS(ホーチミン天然資源環境大学との共同開催)、2019.9

学外活動(委員会活動等)

- ◆小林昭男：日本海洋工学会(副会長・理事・運営委員会委員)
- ◆小林昭男：日本建築学会・海洋建築本委員会(委員)
- ◆小林昭男：神奈川県港湾審議会(委員)
- ◆小林昭男：市原市建築審査会(委員)
- ◆野志保仁：土木学会海洋開発委員会(幹事)

海外出張・海外調査

- ◆小林昭男：セブ工科大学主催の海岸・地震工学セミナーでの講演、およびセブ工科大学での卒業研究指導、フィリピン・セブ市、2019.7.26-30
- ◆小林昭男：河口・海岸・大陸棚国際会議(ECSS2019)およびアジア太平洋国際会議(APAC2019)への参加と研究発表、ベトナム・ハノイ、2019.9.24-28

研究助成・受託研究

- ◆小林昭男：受託研究、株式会社不動テトラ、私設護岸前面の波浪低減に関する調査研究
- ◆野志保仁：受託研究、一般財団法人土木研究センター、サンゴ礁海岸の局所勾配と底質粒度組成に関する研究

星上研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆佐藤佳之・平野隼一・田中仁・小笠原敏記・松政正俊・加藤史訓・星上幸良・小澤宏樹：岩手県大槌湾に位置する根浜海岸における砂浜再生の検討、日本沿岸域学会研究討論会2019講演概要集、No.32、セッション6-2、2019.7
- ◆星上幸良・小林昭男：千葉県勝浦市興津地区の津波避難リスクに関する調査、第63回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築系部会 pp.581-582、2019.12

学外活動(講演・講義等)

- ◆星上幸良：東日本大震災後の津波防災地域づくりにおける技術的課題、国際津波防災学会津波防災対策検討分科会第3回会合・2020.2

学外活動(委員会活動等)

- ◆土木学会土木技術者資格委員会/上級・1級土木技術者(Bコース)審査員

海外出張・海外調査

- ◆星上幸良：河口・海岸・大陸棚国際会議(ECSS2019)およびアジア太平洋国際会議(APAC2019)への参加、ベトナム・ハノイ、2019.9.24-28

研究助成・受託研究

- ◆研究奨励寄付金、一般財団法人土木研究センター、UAV測量による由比ヶ浜の地形変化に関する研究

卒業生の就職状況

学科就職担当 福井剛・山本和清・菅原遼

1. 就職状況の全体像

昨年度（2019年12月31日現在）の就職希望者の就職内定率は学部、大学院ともに100%となりました（表1）。オリンピック以降も企業はバックオーダーを抱えており、建設業界の慢性的な人手不足も手伝って、今後もしばらくはこの傾向が続くような雰囲気です。

就職活動にあたっては、学科が積極的なサポートを行っています。2017年度から建築学科と共催の就活イベントも開始して、一段とパワーアップしました（表2）。「カイケンJOBスクール（写真1）」は海建OBOGによる業界説明会です。昨年度は海建OBOGが実際に活躍している幅広い分野の企業31社が来校しました。建築だけではなく、土木、海洋、エンジニアリング、コンサルタントなど、海建らしい企業が多数参加します。視野を大きく広げてください。「OBOGと学生との懇談会（写真2）」は、建築関連企業に特化した就活イベントです。1日で大手ゼネコンを含む80社の企業と巡り合うチャンスです。企業側の説明者は両学科のOBOGです。ゼネコンに進む学生の8割以上がこのイベント参加企業へ就職しています。それぞれのイベントを有効活用し、OBOGネットワークを通して希望する就職内定を勝ち取りましょう。

2. 業種別就職内定先

本学科における就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く78名（56%）を占めているほか、設計事務所6名（0.4%）、住宅・不動産14名（10%）であり、全体の67%を占めています。また、土木寄りの海洋・コンサルタント22名（16%）への就職先がみられるのも本学科の特徴です。2020年3月卒の主要内定先企業（表2）をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることがわかります。理工学部建築学科と比べて遜色ありません。自信を持って就職活動に挑んでください。

3. 本年度の就職活動に向けて

日本経済団体連合会（経団連）が2018年10月に発表したように、2021年卒より就活協定が廃止されました。3月会社説明会開始、6月企業内選考開始を原則とする企業が多い中、早期選考が行われているのも事実です。昨年は一昨年と比べると1ヶ月ほど前倒して採用活動を行う企業が多く見られました。世間全般の動きも大切ですが、建設業界特有の動きを注視する必要があります。

大手組織設計事務所や大手ゼネコンはかなり早期に採用活動を開始しています。有利に進めるためには、夏期などの早い時期からインターンシップに参加するなど計画性を持って活動する必要があります。右に年間スケジュールの一例を示します。

早期に採用活動をする企業は、1月以降の冬期インターンシップや現場見学会においてリクレーターによる面談が行われて学生の選

表1 就職・進学状況（学部・大学院）

	学部			大学院			学部・院	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計	合計	30年度	29年度
学生数（人）	114	27	141	34	3	37	178	181	158
就職希望者（人）	87	20	107	30	3	33	140	132	111
内定	87	20	107	30	3	33	140	132	111
未定	0	0	0	0	0	0	0	0	0
内定率（%）	100	100	100	100	100	100	100	100	100
大学院進学（人）	22	6	28	1	0	1	29	38	41
本学	19	6	25	1	0	1	26	38	39
他大学	3	0	3	0	0	0	3	0	2
その他（人）	5	1	6	3	0	3	9	11	6
研究生	0	1	1	0	0	0	1	3	1
留学（希望者含む）	0	0	0	2	0	2	2	1	1
他大学・専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1
次年度公務員志望	0	0	0	0	0	0	0	0	0
就職の意思のない者	5	0	5	1	0	1	6	7	3

表2 就活支援イベント（H31年度実績）

日程	イベント	開催主体
8/1	OBOGと学生との懇談会	海建・建築
10/15～25	【大学院生限定】キャリア教育プログラム	海建・建築
1/29～2/4	カイケンJOBスクール	海建
2/5～7	学内セミナー	理工学部



写真1 カイケンJOBスクール開催風景 写真2 OBOGと学生との懇談会開催風景

	【一般的な企業】	【早期に活動する企業例】
4月		
5月		
6月	夏期インターンシップエントリー	夏期インターンシップエントリー
7月		
8月	夏期インターンシップ	夏期インターンシップ
9月	夏期インターンシップ	夏期インターンシップ
10月		
11月		
12月		リクレーター面談
1月	冬期インターンシップ	冬期インターンシップ
2月	冬期インターンシップ	企業面談・内々定
3月	採用面接開始	適性検査
4月	適性検査	内定
5月		
6月	内定	
7月		

別が進められます。実質的な面接と言えます。3月を待たずに内々定を出す企業もあります。

それ以外の多くの企業は少しスケジュールが遅れますが、1月のインターンシップに参加するためには、12月中には就職の方向性（職種・企業規模等）を決めておく必要があります。各社のスケジュールが重複するためそれほど多くのインターンシップに参加できないからです。インターンシップは就活の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知る、企業は学生と巡り会う機会として双方のメリットがあるため、この数年で急速に増えてその重要度も増す傾向にあります。

学科では3回の就職ガイダンスを予定しているので必ず参加して下さい。最新の企業動向・就活スケジュール・学内ルールなどの重要な情報を伝えます。併せて学部や学科が主催する就職セミナーに積極的に参加し、企業と職種、自分の適性についての認識をしっかりと持ちましょう。特に学科主導のイベントは、これまでの経験を踏まえて海建学生の適性や嗜好を踏まえたもので、他には無いものです。是非有効活用して下さい。

夏期インターンシップは気になる業種の最低1つには参加しましょう。意識も大きく変わるはずですが、夏休みの過ごし方は重要で、SPI対策、専門試験対策、企業研究、履歴書の試作などやるべきことは盛りだくさんです。冒頭では採用の堅調さを述べましたが、採用に至るまでのハードルは決して低くはなっていません。企業は仮に目標採用数に満たなくとも能力の高い学生だけを採る傾向が強まっています。

令和2年度の学科の就職指導担当教員は福井・菅原、そのほか海建教室事務の岡崎さんと倉井さんがフォローしてくれます。海建教室事務室は13号館3階1321室です。営業時間は9～17時（平日のみ）が基本です。また、13号館1階のキャリア支援センターでは企業情報・OBOGの活動履歴の閲覧ほか、履歴書作成指導や模擬面接を受けることができます。是非一度足を運んで、有効に活用して下さい。学科から発信する就職セミナー、インターンシップ、企業説明会、求人に関する情報はmoodleにアップされるのでこまめにチェックするようにしてください。

表3 主要就職企業一覧

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	清水建設	2		設計事務所	りんかい日産建設	2		海洋・コンサルタント	日本工営		1
	大成建設	5			スターツCAM	4			オリエンタルコンサルタンツ		2
	大林組	1			穴吹工務店	1			いであ		1
	竹中工務店	3	1		日本住宅	3			クレアリア		1
	五洋建設	6			株式会社テクノクス		1		エコー	1	2
	フジタ	5	1		オーク設備工業	1			ネクスコ東日本エンジニアリング		1
	戸田建設	3			日鉄テックスエンジ		1		三井共同コンサルタント	1	1
	前田建設工業	2			石井鐵工所	1			日本港湾コンサルタント	2	
	三井住友建設	3			NTTファシリティーズ		1		東電タウンプランニング	1	
	西松建設	2			JRE設計		1		日本エンジニアリング	2	
	青木あすなろ建設	1			横河建築設計事務所		1		エイト日本技術開発	1	
	東急建設	2			浅井謙建築研究所	1			日立造船		2
	熊谷組	1			クロスファクトリー	1			ゼニヤ海洋サービス		1
	高松建設	3			真明エンジニアリング		1		サンユウシビルエンジニアリング	1	1
	奥村組	1		住宅不動産	大和ハウス工業	3	1	役所等	横浜市役所		1
	鉄建建設	1	1		積水ハウス	1			千葉県	1	
	鴻池組	1			大京	1			東京都特別区	1	
	東亜建設工業	1			大東建託	2			四日市市	1	
	東洋建設	3			ボラス	1		その他	東京電力HD		1
	東鉄工業	2			野村不動産パートナーズ	1			能美防災株式会社		1
	飛鳥建設	1	1		住友林業ホームテック	1			ハウスプラス住宅保証		1
	ピーエス三菱		1		住宅情報館	1			桐井製作所	1	
	新日本建設	2			ウスイホーム	1			日本コンクリート工業	1	
	若築建設	2			サンワ設計	1			中野積算	1	
	不動テトラ	2	2								

海と建築

vol.
20

写真は、今は無き「東京灯標」。この灯標は建築雑誌に紹介された海洋建築としては最も古いものと思われる作品で、1969年9月発行の“建築文化”に紹介された。この灯標が完成するまでは、東京港にはわが国で唯一無二の灯標船が船舶航路の交通整理を行っていた。

およそ45年間の役目を果たし2014年に撤去された。この計画では「灯台らしく」ロマンが感じられるこ

とや、「見張る」ことを形として表現することが追及され、灯火を支える塔身はより灯台らしく、監視室は二枚貝が少し開き外を眺めるといったイメージが形態として取り入れられた。また、構造については上部構造と下部構造に分けて計画され、下部は海底地盤が軟弱なため16本の柱が無骨にならないように細心の注意が払われて計画された。上部構造は柱をひと回り大きな箱で囲む形態が取り入れられた。こうしてまとめられた形態は安定感と軽快さを持ったデザインとなり東京湾を行き交う船舶から長らく親しまれた。なお、構造設計には後に日本大学総合科学研究所教授に就任された秋山宏先生が若かりし頃担当されていた。

(特任教授 畔柳昭雄)



ありし日の東京灯標の雄姿



教員異動

就任：非常勤講師 高橋孝二 先生
 就任：非常勤講師 小平純子 先生
 就任：非常勤講師 奥村梨枝子 先生
 就任：非常勤講師 長谷川洋平 先生

退任：特任教授 増田光一 先生（4月より非常勤講師）
 退任：非常勤講師 水野吉樹 先生
 退任：非常勤講師 間田真矢 先生

海建

カイケンマガジン No.112

発行者／北嶋圭二 発行日／令和2年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
 日本大学理工学部海洋建築工学科教室
 Tel：047-469-5420 (事務室)
 Fax：047-467-9446

編集委員：居駒知樹、恵藤浩朗、野志保仁、菅原遼、相田康洋
<http://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
 デザイン制作 — QB System Co.,LTD.